

昭和五十七年三月招集

第一回館山市議定会定例会會議錄

館山市議會

目次

○第一号(三月五日)

開会、議長の報告	六
会議録署名議員の指名、会期の決定、会議日程の決定	七
議案第一号ノ議案第二十五号(施政方針、提案理由の説明)	七
議案第二十六号	一九

説明

神田 守隆君の質疑、当局の応答	一九
安西 益男君の質疑、当局の応答	二六
古賀礼四郎君の質疑、当局の応答	三一
石井 輝久君の質疑、当局の応答	三四
動議、委員会付託の省略	三六
栗原 一雄君の討論	三七
神田 守隆君の討論	三八
古賀礼四郎君の討論	三九
松下 正己君の討論	四〇
石井 輝久君の討論	四一
採決	四五

延会

○第二号(三月十一日)

開議

行政一般通告質問	四九
石井 武敏君の質問、当局の応答	五〇
石井 謙君の質問、当局の応答	六三
横溝 功君の質問、当局の応答	六九

古賀礼四郎君の質問、当局の応答	七七
神田 守隆君の質問、当局の応答	八七
会議日程の変更	九六
散会	九七

○第三号(三月十五日)

開議

日程の追加・議案第二十七号	一〇二
説明、委員会付託の省略	一〇三
神田 守隆君の討論	一〇三
古賀礼四郎君の討論	一〇三
採決	一〇四

議案第八号

委員会付託の省略、採決

議案第九号ノ議案第二十二号	一〇四
栗原 一雄君の質疑、当局の応答	一〇四
神田 守隆君の質疑、当局の応答	一〇六
石井 輝久君の質疑、当局の応答	一一一
委員会付託	一一七

議案第二十三号ノ議案第二十五号

神田 守隆君の質疑、当局の応答

委員会付託

請願第一号	一二三
説明、委員会付託	一二四
請願第二号	一二四
説明	一二四

委員会付託	一二五	発言の取り消し	一七七
請願第 三号	一二五	採決	一七七
説明	一二五	議案第二十一号、議案第二十二号、議案第二十五号	一七八
委員会付託	一二六	建設経済委員会委員長報告	一七八
延 会	一二六	採決	一八〇
○第四号(三月十六日)		議案第一号、議案第七号	一八一
開 議	一二九	予算審査特別委員会委員長報告	一八一
議案第一号、議案第七号	一二九	神田 守隆君の討論	一八五
石井 武敏君の質疑、当局の応答	一三〇	採決	一八六
神田 守隆君の質疑、当局の応答	一四一	請願第 二号	一八六
栗原 一雄君の質疑、当局の応答	一四九	文教民生委員会委員長報告	一八六
石井 輝久君の質疑、当局の応答	一五三	採決	一八七
安西 益男君の質疑、当局の応答	一六二	請願第 三号	一八七
予算審査特別委員会の設置、付託、委員の選任	一六五	建設経済委員会委員長報告	一八七
会議日程の変更	一六五	採決	一八八
延 会	一六五	継続審査について	一八八
○第五号(三月二十七日)		議案第二十八号	一八九
開 議	一七〇	説明、委員会付託の省略、採決	一八九
議長 の 報 告	一七〇	議案第二十九号	一八九
議案第九号、議案第十三号、議案第二十三号	一七一	説明	一八九
総務委員会委員長報告	一七一	委員会付託の省略、採決	一九〇
神田 守隆君の討論	一七三	議案第 一号	一九〇
採決	一七四	説明、委員会付託の省略、採決	一九〇
議案第十四号、議案第二十号、議案第二十四号	一七五	議案第 二号	一九一
文教民生委員会委員長報告	一七五	説明、委員会付託の省略、採決	一九一
神田 守隆君の討論	一七六	閉 会	一九一

第一回館山市議定会定例会會議錄（第一号）

一、昭和五十七年三月五日（金曜日）午前十時

二、館山市役所議場

三、出席議員 二十六名

- | | |
|------------|------------|
| 一番 神田 守隆 | 二番 石井 謀 |
| 四番 横溝 功 | 五番 福原 勤 |
| 七番 古賀 礼四郎 | 八番 石井 昌治 |
| 九番 松下 正己 | 一番 林 豊 |
| 一二番 栗原 一雄 | 一三番 近藤 好雄 |
| 一四番 渡辺 昭夫 | 一五番 伊藤 幸太郎 |
| 一七番 黒川 平治 | 一八番 流山 源次郎 |
| 一九番 石井 輝久 | 二〇番 石井 武敏 |
| 二一番 吉田 勇治郎 | 二二番 藤田 益治 |
| 二三番 菊井 敏博 | 二四番 和田 一郎 |
| 二五番 五十嵐 昇 | 二六番 伊賀 多朗 |
| 二七番 石井 正 | 二八番 安澤 徳順 |
| 二九番 安西 益男 | 三〇番 山口 康 |

一、欠席議員 なし

二、出席説明員

- | | |
|--------------|-------------|
| 市長 長半澤 良一 | 助役 小倉 澄男 |
| 収入役 太田 博雄 | 市長公室長 斎藤 武男 |
| 総務部長 石田 雄一 | 民生部長 鈴木 力 |
| 経済部長 山田 俊康 | 水道課長 庄司 利光 |
| 教育委員長 古宮 幸八郎 | 教育委員長 安田 豊作 |
| 委員 官 澤 茂 | 事務局長 蜂谷 達二 |
| 監査委員 鈴木 重司 | 監査事務局長 角田 巖 |

農業委員会 庄司 徹

事務局局長 高尾 豊

書記 兵藤 恭一 事務局長補佐 熊谷 吉雄

書記 石井 一夫 書記 鈴木 哲

書記 記 嶋田 範夫

一、議事日程（第一号）

昭和五十七年三月五日午前十時開議

日程第一 会議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

日程第三 会議日程の決定

議案第一号 昭和五十七年度館山市一般会計予算

議案第二号 昭和五十七年度館山市国民健康保険特別会計予算

議案第三号 昭和五十七年度館山市と畜場特別会計予算

議案第四号 昭和五十七年度館山市ユースホステル特別会計予算

議案第五号 昭和五十七年度館山市学童災害共済事業特別会計予算

議案第六号 昭和五十七年度館山市水道事業特別会計予算

議案第七号 昭和五十七年度館山市国民宿舍事業特別会計予算

議案第八号 昭和五十六年度館山市一般会計補正予算（第八号）の専決処分の承認について

日程第四

議案第九号

館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十一号

館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十二号

館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十三号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十四号

館山市児童遊園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十五号

館山市廃棄物処理施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十六号

館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十七号

館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十八号

館山市防災会議条例の一部を改正する

条例の制定について

議案第十九号

館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十号

館山市災害等罹災者見舞金給付条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十一号

公有水面埋立免許に関する答申について

議案第二十二号

市道路線の認定について

議案第二十三号

昭和五十六年度館山市一般会計補正予算(第九号)

議案第二十四号

昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第二号)

議案第二十五号

昭和五十六年度館山市ユースホステル特別会計補正予算(第二号)

日程第五

館山市条例改廃請求に係る条例の制定について

議案第二十六号

開 会 午前十時六分開会

○議長(林 豊君) 本日の出席議員数二十六名、これより昭和五十七年第一回市議会定例会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議長の報告

○議長(林 豊君) 本定例会議案審査のため、地方自治法第二百二

十一條の規定による出席要求に対し、お手もとに配付のとおり出席報告がありましたので、御了承願います。

なお、市長から地方自治法第八十條の規定による専決処分及び監査委員から十二月乃至一月実施の監査の結果が報告されております。それぞれお手もとに配付の印刷書により御了承願います。

議案の配付

○議長（林 豊君） ただいま市長から議案並びに説明書の送付がありました。

議案並びに説明書を配付いたします。配付漏れはありませんか。――配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

会議録署名議員の指名

○議長（林 豊君） 日程第一、会議録署名議員の指名を行います。一三番議員近藤好雄君、二三番議員菊井敏博君、以上両君を指名いたします。

会期の決定

○議長（林 豊君） 日程第二、会期の決定を行います。

本定例会の会期につき、議会運営協議会の意見は本三月五日から三月二十七日までの二十三日間ということであります。

お諮りいたします。会期を二十三日間と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって会期は三月五日から三月二十七日までの二十三日間と決定いたしました。

会議日程の決定

○議長（林 豊君） 日程第三、会議日程の決定を行います。

お諮りいたします。お手もとに配付いたしました会議日程表は本定例会の大体の日取り予定であります。議会運営協議会の意見により作成いたしました。

本定例会をおおむねこの会議日程表により運びますとともに、その間議案の追加または議事の都合等によりまして、その都度これを改めることにして大体このようにいたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって会議日程は決定いたしました。

議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第四、議案第一号乃至議案第二十五号を一括して議題とし、これより昭和五十七年度施政方針並びに各議案の提案理由の説明を求めます。

施政方針並びに提案理由の説明

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 本日、ここに三月定例市議会を招集し、昭和五十七年度一般会計及び特別会計の予算案並びに諸議案につき

まして御審議をお願いすることになりましたが、開会にあたり新年度の市政運営に関する所信を申し述べたいと存じます。

御承知のとおり我が国経済は、近年二度にわたる石油危機を経て、高度成長から安定成長の経済へと、石油エネルギーの恒久的な制約のもとに移行しました。

高度成長による豊かな自然増収の下に拡大した今日の行財政は大幅な財政収支の不均衡が恒常化し、このため、現在行財政改革が国民合意の緊急命題として、国において進められております。

地方においても財政の合理化を実行するとともに、行政の刷新を進める等、大きな困難を伴いつつ、新しい時代に対処していかなければならない状況におかれております。

一方、今、東京湾横断道路建設を中心とした東京湾時代の幕開けを迎え、県南の地に輝かしい未来が展望されるに至り、本市としても積極的な施策の展開による新時代にふさわしい地域づくりが、より求められる状況となつてまいりました。

私は、昭和四十九年十二月市政を担当して以来、一貫して人間尊重、市民生活優先を市政の基本理念として、明るく豊かな香り高い文化福祉都市の実現に向かって最善の努力をしてまいりました。

この間、地方自治体をとりにくく環境は、大変厳しいものがございましたが、館山市政は、市民生活に欠かせない上水道の拡張並びにし尿処理場の建設、また、教育効果の極めて大きい学校施設の整備、さらに教育的、文化的欲求が高まる中で博物館分館を建設する等、行政各般にわたり順調に進展してまいりました。

これは、ひとえに市議会をはじめ市民各位の御理解と御協力に

よるものと、深く感謝申し上げる次第でございます。

迎える昭和五十七年度は、行財政運営の適正化、効率化を推進する一方、財源確保による健全財政の堅持を図りながら、住みよい環境づくり、福祉社会づくり、教育、文化の環境づくり、産業の基盤づくりの四項目を主要施策とし、念願のコミュニティ施設並びに博物館本館の建設に着手すべく予算を編成いたしました。

なお、ごみ処理施設につきましては、補助金採択次第着手する所存でございます。

以下、主要施策の概要につきまして順次御説明いたします。

第一は、住みよい環境づくりであります。

市民の日常生活に密着した道路整備につきましては、交通事情の変化に伴う社会環境整備の上から、年々その重要度を加えており、各地区住民の要望も多い中で、今年度は重点的に予算を配分し、改良、舗装、補修等、積極的な整備を図り、生活利便性の増大に努めてまいります。

また、国道一二七号館山バイパスにつきましては、過日都市計画変更が決定いたしましたので、今後は、市民の協力を得ながら関係機関との連携を密にして、早期実現に向け努力してまいりたいと考えております。

下水路関係につきましては、八幡都市下水路、北条中央排水路その他一般排水路の整備を図る一方、次年度以降に計画的な改良を実施すべく、六軒町、北条中央、南町各排水路の実施設計あるいは現況調査を実施してまいります。

ごみ処理施設建設につきましては、地元住民の同意も得ており、本年度着手すべく諸条件は整っておりますので、今後補助金確保

に努力を続け、決定次第着手する所存でございます。

次に、公園整備について申し上げます。

公園は、本来の目的のほか緑地空間の確保、自然の保全あるいは防災対策上担う役割は大きく、本市といたしましても計画的に整備を進めているところでございます。

城山公園につきましては、拡張区域の用地買収を促進する一方、博物館本館を建設し、歴史、文化を享受しつつ憩える都市公園として、機能を高めてまいりたいと考えております。

また、県立館山運動公園につきましては、着工後五年目を迎える本年度はテニスコート、駐車場等整備が予定されておりますが、今後とも早期完成を働きかけていく所存でございます。

防災対策につきましては、現在懸念されております大規模地震への対策を重点とし、一般の基礎調査報告書を基に、関係機関と連携をとりながら各々対策を立て対処してまいります。一方、市民が近隣同士協力し対処する自主的活動が極めて肝要でありますので、自主防災意識の醸成を促進してまいりたいと考えております。

上水道事業につきましては、前年度第二次拡張事業を終了し、普及率は三芳水道加入分を含め約八五％となり、ほぼ充足されております。本年度事業といたしましては、山本浄水場に浄水池を増設し、効率的な水の確保を図ってまいります。なお、館野、九重の未給水地域につきましては、五十六年度調査結果を検討し、対策を講じてまいる所存でございます。

次に、第二に福祉社会づくりであります。

福祉対策につきましては、行財政改革で見直し気運がござい

ますが、本市といたしましては、真に援護を必要とする方々への福祉の推進については、極力努力してまいる所存でございます。

本年度も在宅福祉に重点をおき入浴サービス事業及び国際障害者を契機として昨年新たに発足した肢体不自由児機能回復訓練事業の充実をはじめ、保育所における延長保育の実施や設備の整備等、福祉全般の諸施策を推進してまいります。

また、本来福祉社会は、住民相互の心の交流を基盤とした相互扶助精神によって、進展するものでありますので、今後、更に活発なボランティア活動を期待しながら、地域ぐるみ福祉の推進を図ってまいります。

次に、健康づくり対策でございますが、本年度は保健婦を増員し、保健婦活動の充実、活発化を図る中で、新たに保健婦の家庭訪問による乳児の保健指導を実施するとともに、館野地区をモデル地域として、疾病の早期発見を期した総合検診を実施する等、保健対策の強化を図ってまいります。また、各種保健、健康指導、検診等市民の健康づくりの拠点として、保健センターの建設に着手いたします。

一方、健康は自らを守るものでありますので、広報、講座等を通じて、健康に関する知識の高揚を図り、自己健康管理の意識を啓発してまいります。

コミュニティ対策につきましては、住民参加の特色ある都市形成をめざし、市民意識の醸成並びにコミュニティ形成の条件整備等推進してまいりました。現在、各地区において多様な地域活動が展開されるに至っておりますが、今後とも施設整備を推進するとともに、コミュニティ活動を促進し、より住みよい地域社会つ

くりを積極的に図ってまいります。

また、本年度から二か年事業で、コミュニティ施設を建設いたします。本施設は中央公民館、北条地区学習等供用施設、保健センター、勤労青少年ホームからなる複合施設でございますが、広く市民に利用される中央集会施設として、コミュニティ推進の核となるものでございます。

次に、第三に教育、文化の環境づくりであります。

健康で文化的な生活を営むためには、生涯を通じさまざまな学習の機会を持つことが必要です。

まず、学校教育につきましては、従来から優先的に施設整備を図ってまいりましたが、本年度も船形小学校及び同幼稚園の改築児童増によります館野小学校の増築並びに館山幼稚園の用地造成等実施してまいります。

西岬地区の学校統合につきましては、一部住民から本市条例改廃の直接請求があり、今議会でこれに基づきます関連議案の審議をお願いすることとなりましたが、本件につきましては、昨年十二月議会で議決をいただいたとおり、統合を進めてまいる所存でございます。このため、西岬小学校の増築及び同幼稚園の改築を実施いたします。

次に、社会教育について申し上げます。

近年、社会生活が多様化、高度化する中で、社会教育は重要な役割を担っており、市民の主体的な学習の場として施設整備等、施策の推進が広く求められております。このため、中央公民館等施設整備を実施し、生涯教育環境の充実を図るとともに、従来から進めております各種学級講座の開催をはじめ、社会教育団体の

育成を促進し、社会教育活動の高揚を図ってまいります。

また、芸術、文化の振興を図るため、本年度は、里見氏関連資料を中心とする南総の文化遺産を保存、保護し、継承する博物館本館を建設するとともに、引き続き音楽鑑賞等優れた芸術、文化を提供し、文化的水準の高揚を図ってまいります。

体育、スポーツの振興につきましては、三回目を迎える南房総館山若潮マラソン大会を更に拡大、充実させるとともに、従来から進めております各種スポーツ教室や大会に加え、新たに市民水泳大会を実施する等、親しめるスポーツの場を広げながら、市民の体力づくりを推進してまいります。

次に、第四に産業の基盤づくりであります。

農業につきましては、水田利用再編対策の推進を重点施策とし、本年度は転作物物展示ほ設置事業、転作物種子確保事業等を実施する中でこれを推進し、地域の特性を生かした農業を営む基幹農家の育成を図るとともに、公共性の高い農免道路の整備及び地域からの要望の多い小規模土地改良事業の補助率を引き上げ、農道、排水路等整備の促進を図ってまいります。

水産業につきましては、五十六年度からスタートした新沿岸漁業構造改善事業を中心に施策の展開を図り、水産物需要の動向に即した効率的かつ安定的な供給確保を目的とする諸事業を実施する中で、水産業の振興を推進してまいる所存であります。本年度事業といたしましては、漁業生産活動の基盤であります各種漁港の整備を計画的に進めるとともに、人工魚礁の設置や魚介類の種苗放流による水産資源の増殖事業を引き続き推進し、漁場環境の改善に努めてまいります。

商業につきましては、近年消費者購買力の市外への流出、消費者意識の多様化、大型店の出店計画等、商業をとりまく環境は大変厳しいものがあります。本市といたしましても、商工会議所等関係団体との連携を保ち、経営の合理化、近代化を推進する中で消費者の生活面を配慮しつつ、地域にふさわしい商業機能の充実を図ってまいります。本年度も引き続き中小企業に対する事業資金の融資、商工会議所への事業補助等、商業の振興を図るとともに、働く青少年の憩いの場として、文化、教養等健全な余暇活動の場を提供することを目的に、勤労青少年ホームを建設し、勤労者の福祉増進に努めてまいります。

次に、観光について申し上げます。

前年度、県南の自立をめざし、安房・君津圏域モデル定住圏計画がスタートし、観光の振興が当地域経済発展を図るための重点施策として取り上げられております。本市もこれを受け、五十八年度以降事業実施を目標に、長期的展望に立った館山市観光振興を図るため、地域ぐるみの観光地づくりを推進すべく、前年度基本計画の策定を委託いたしました。本年度はこれに基づき、具体的な実施計画を作成する所存でございます。

本市は、首都東京に近接する好位置にあり、首都圏におけるファミリー型、週末型等の観光レクリエーション空間として、将来の発展が期待できる要素を高く持っております。このため、恵まれた自然、歴史、文化等を十分に生かした特色ある多季型観光地づくりに努力するとともに、農林漁業や地場産業と観光レクリエーション需要とを有機的に結びつける等、地域経済の発展に寄与する観光関連産業の振興を図ってまいりたいと考えております。

以上の施策を中心といたしまして、昭和五十七年度一般会計予算の編成を行った結果、歳入歳出予算の総額は九十二億三千四十七万円で、前年度当初予算に対し、五千三百七十七万円の増額となり、〇・六％の伸び率となっております。

まず、歳入予算の内容についてであります。歳入の柱であります市税につきましては、経済情勢と税制度の改正を勘案いたしまして、三十五億九千三百八十万円を計上、前年度対比三億二千九百五十万円の増、構成比は三八・九％でございます。

このほか、地方譲与税一億九千七十万円、娛樂施設利用税交付金四千三百六十万円の増、自動車取得税交付金七千六百五十万円の増、国有提供施設等所在市町村助成交付金七千万円、地方交付税十五億六千六十万円、構成比一六・九％、交通安全対策特別交付金七百五十万円の増、分担金及び負担金一億八百万円、使用料及び手数料につきましては、衛生手数料のうち今議会に館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正をお願いいたしておりますが、衛生センターの完成に伴う経常経費の増嵩が明らかでありますので、その費用の一部を負担していただき、施設の維持管理と運営を円滑に行うためのし尿処理手数料の改定を含み、二億七千六百三十万円の増、国庫支出金十三億四千四百四十万円の増、構成比一四・五％、県支出金七億千六百八十万円、財産収入六千三百六十万円の増、寄附金千五百五十万円の増、繰入金一億円、繰越金七千四百万円の増、諸収入一億八千五百五十万円の増、市債八億八千三百万円をそれぞれ計上いたしました。

これら歳入のうち、特に市債につきましては、国で示した地方財政計画の上で、地方公共団体の昭和五十七年度財政収支は、財

源不足が解消されるとの見通しにより、建設地方債の増発が行われないことを考慮して積算計上し、また、国・県支出金につきましては、行財政改革の影響について具体的に個々の事業について示されておりませんので、流動的な面もありますが、国及び県と緊密な連絡、情報の収集に努めたいと考えて計上いたしました。

そのほかにつきましては、前年度の実績、地方財政計画等を参考として積算計上いたしましたものでございます。

次に、歳出予算の内容について申し上げます。

まず、歳出予算の性質別の内容についてありますが、人件費二十五億四千九百八十余円、構成比二七・六％、物件費九億三千六百四十万余円、構成比一〇・二％、扶助費十二億六千三百六十万余円、構成比一三・七％、補助費等七億五千七百四十万余円、構成比八・二％、普通建設事業費二十四億九千三百七十余円、構成比二七％、公債費八億四千二百五十万余円、構成比九・一％その他三億八千六百七十余円となっております。

以下、目的別内容について、各款別にその概要を申し上げます。

第一款、議会費は、議会運営に要する経費として一億五千六百七十余円、前年度対比四百九十余円の増となっております。

第二款、総務費は、コミュニティ施設建設費として、二か年継続事業の初年度分三億六千五百六十万余円を計上するとともに、一般管理費、文書広報費、企画費、防災、交通、防犯関係費、徴税費、市長選挙費等の経費として十四億二千六百七十余円、前年度対比四億八千五百十余円減額、構成比は一五・五％となっております、この減額の主な理由につきましては、コミュニティ施設用地購入費の減によるものでございます。

第三款、民生費は、福祉作業所運営費並びに地域ぐるみ福祉活動費等社会福祉費、老人福祉費、児童福祉費、生活保護費で十七億四百万余円、前年度対比五千七百七十余円の増、構成比は一八・五％となっております。

第四款、衛生費は、完成いたしました衛生センターの維持管理費を計上するとともに、国の繰り出し基準等に基づく水道事業特別会計への繰出金として一億四千五十万余円を計上し、さらに現在必要に迫られているごみ最終処分地の購入費、館山市環境保全公社管理棟等建設費に充てるための出捐金と乳幼児医療給付費、市民の健康管理を推進するための各種予防接種、結核、がん等の検診事業費、正木処理場の維持管理費等で九億三千九百九十余円、前年度対比二億四千三百五十万余円の減、構成比は一〇・二％となっております。

この減額の理由につきましては、衛生センター建設費の減額が主なものでございます。

第五款、労働費は、勤労者厚生預託金、勤労者団体補助金等、勤労者の福祉、厚生を増進を図るための経費として七百十余円を計上いたしました。

第六款、農林水産業費は、農業費として水田利用再編対策転作促進特別対策事業、山間地域果樹生産省力化推進事業、小規模土地改良事業等の投資的経費に対しての補助金を計上するとともに、引き続き実施を予定する農免道路整備事業費、農業用施設等補修用材料費等を計上いたしました。

水産業費の主なものは、流通等改善施設整備事業、漁船用燃油補給施設設置事業、増養殖造成改良事業等、各事業主体に対する

補助金を計上、さらに、波左間漁港、栄の浦漁港をはじめとして、市管理漁港整備費並びに県営漁港整備事業負担金等、漁港施設の近代化と育てる漁業を推進するための経費を計上し、農林水産業費総額で四億八千十万余円、前年度対比六千四百万余円の増となっております。

この増額の理由につきましては、水産業費で漁港局部改良工事費、県営漁港整備事業負担金等の増によるものでございます。

第七款、商工費は、引き続き商工会議所建設費補助金、中小企業融資預託金を計上いたしました。また、観光費につきましては、今後の観光行政の指針となる観光振興実施計画の策定経費のほか、海水浴場の施設整備等の経費を計上いたしました。商工費総額一億七千四十万余円、前年度対比四百三十万余円の減となっております。

この減額の主な理由は、平砂浦自然環境保全用地購入費の減によるものでございます。

第八款、土木費は、館山運動公園整備事業負担金のほか、道路新設改良費、河川排水路整備費、港湾整備費、城山公園用地購入費、都市計画事業費等で総額十二億四百八十万余円、前年度対比二億九千四百万余円の増となっておりますが、特に生活環境と市民の憩いの場の整備に重点をおき、排水整備を含む道路関係で一億八百三十万余円、街路事業費で八千八百万円、都市下水路費で二千六百四十万余円、公園整備工事請負費で四千四百四十万余円の増額予算を編成いたしました。この結果、五十四年度以降一〇%以内でありました歳出中に占める土木費の割合が一三%となります。

第九款、消防費は、防火水槽六基、消防自動車一台、詰所一か所等、消防施設の整備、充実に努めるほか、消防団関係経費並びに常備消防関係の負担金等で総額三億三千四百万余円、前年度対比二千二百七十余円の増となっております。

第十款、教育費は、義務教育施設の整備として、第三期船形小学校校舍防音改築、西岬小学校校舍増築、館野小学校校舍増築、また、幼稚園関係では、船形幼稚園園舎防音改築、西岬幼稚園園舎改築、五十八年度に改築を予定しております館山幼稚園用地造成工事に要する経費を計上し、社会教育関係では、市民の文化的教養の向上を図るため、各種文化講座の開催、図書館図書の充実、博物館本館建設経費、分館維持管理経費、市民センターの管理運営業務委託と施設が建設後十四年を経過したことにより外装の補修工事を行う必要がありますので、それに要する経費等を、また保健体育関係では、第三回若潮マラソン大会開催費、社会体育施設の維持管理に必要な補修経費等を計上し、教育費総額で十八億五千六百二十万余円、前年度対比二億二千六百万円の増、構成比は二〇・一%となっております。この増額の理由といたしましては、博物館本館建設事業関係経費、小学校校舎管繕工事等の増によるものでございます。

第十一款、災害復旧費は、農林水産施設災害復旧費で二千六百万円、前年度対比二千九百七十余円の減となっております。この減額の理由といたしましては、土木施設災害復旧事業の減によるものでございます。

第十二款、公債費で八億四千二百七十余円、前年度対比一億六千二百四十万余円の増、構成比九・一%。

第十三款、諸支出金で六千九十余円、第十四款、予備費で前年度同額の二千万円をそれぞれ計上いたしました。

以上で、一般会計当初予算に計上いたしました内容の概要について申し上げますが、このほか、国庫補助の關係で当初予算に計上できないごみ処理施設建設事業に係る経費につきましては、補助事業の内示の段階におきまして追加補正を予定しております。

また、今後の補正財源の見込みといたしましては、国・県支出金、特別交付税、前年度繰越金等がありますが、これらはごみ処理施設をはじめとする補助事業、当初予測できなかった事務、事業等、また、職員の給与改定率の見込みといたしまして、当初予算計上額が二%でありますので、人事院勧告がこれを上回った場合の財源に充てたいと考えております。

次に、継続費としてコミュニティ施設建設費について設定し、地方債としましては、コミュニティ施設建設事業のほか十六件、また、歳計現金の一時不足に備えて一時借入金の高限度額を十億円と定めることといたしました。

以上が議案第一号の概要でございますが、次に、議案第二号から順次その概要を申し上げます。

まず、議案第二号昭和五十七年度館山市国民健康保険特別会計予算について申し上げます。

国民健康保険事業につきましては、予想される医療費の改定による増と受診割合等を考慮いたしまして、医療給付費が増加するとの判断により積算いたしました。国民健康保険税については、特定財源の把握を極力細部にわたって行った上で積算しておりますが、本算定までは流動的な要素もありますので、今後十分な検

討を加え、住民の負担軽減を図る考えであります。この結果、歳入歳出それぞれ二十一億九千三百五十万を計上いたしました。

次に、議案第三号昭和五十七年度館山市と畜場特別会計予算であります。歳入歳出それぞれ千万を計上いたしました。独立採算では運営が維持できないことが予想されますので、一般会計から百五十万円の繰入金を予定し計上いたしました。

次に、議案第四号昭和五十七年度館山市ユースホステル特別会計予算であります。歳入歳出それぞれ二千二百二十万を計上いたしました。

次に、議案第五号昭和五十七年度館山市学童災害共済事業特別会計予算であります。歳入歳出それぞれ二百三十万を計上いたしました。

次に、議案第六号昭和五十七年度館山市水道事業特別会計予算であります。収益的収入につきましては、水道料金、その他一般会計からの補助金等で五億九千七百六十万、資本的収入として一般会計からの出資金等で一億六千四百四十万、これに対し収益的支出として、営業費用、企業債利息等で五億四千四十万、資本的支出として水道施設等工事費、企業債償還金等で一億六千四百三十万をそれぞれ計上いたしました。

本年度事業の主なものは、山本浄水場浄水池増設工事並びに配水管布設工事等の改良工事でございます。

次に、議案第七号昭和五十七年度館山市国民宿舎事業特別会計予算であります。収益的収入につきましては、宿泊料金等で一億八千九百十万余円、収益的支出で営業費用、企業債利息で一億八千九百十万余円、資本的支出で二百三十万余円、支出合計一億

九千四百四十万余円を計上いたしました。

以上、各会計の昭和五十七年度予算の概要について御説明いたしました。一般会計、特別会計の合計は、百二十三億五千三百六十万余円となります。

次に、一般議案について、その提案理由を申し上げます。

まず、議案第八号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算（第八号）の専決処分の承認についてであります。去る一月六日県選挙管理委員会に千葉海区漁業調整委員会会長から同委員会委員一名が死亡した旨の通知があったため、漁業法第九十三条第二項の規定により補欠選挙が行われることになり、同月十二日開催の県選挙管理委員会において二月十六日執行と決定いたしました。

この執行経費につきまして全額県支出金を財源として見込み、六十九万七千円を追加する補正予算を昭和五十七年二月一日地方自治法第七十九条第一項の規定により専決処分いたしましたので、議会に報告し、この承認を求めようとするものでございます。

次に、議案第九号館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定についてであります。本市中小企業融資取扱金融機関として館山信用金庫南支店を指定いたしましたので、これに伴い館山市中小企業融資運営委員会の委員を一人増員し、定数十五人以内の委員としようとするものでございます。

次に、議案第十号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。市議会議員に関する報酬額の改定につきましては、現行の報酬額は昨年四月に改定したもので、その後の県下各市との均衡、諸物価の上昇、さらには、過去における報酬額改定の経緯等を考

慮いたしまして、去る一月十二日に館山市特別職報酬等審議会に諮問いたしましたところ、同審議会会長より一月二十六日付けをもって改定の額及び改定の時期につきまして、いずれも適当と思われる旨の答申を得ましたので、この答申を尊重いたしまして、昭和五十七年四月一日から報酬額を改定しようとするものでございます。

なお、各種委員会の委員及びその他の特別職の報酬につきましても市議会議員の報酬と同様に見直しを行い改定しようとするものでございます。

次に、議案第十一号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。現行の給料は、昨年四月に改定されたもので、その後、一般職につきましては昨年十二月市議会定例会におきまして給与の改定が議決され、四月にさかのぼり実施されており、また、諸物価の上昇等もありますので、特別職報酬等審議会に諮問いたしましたところ、適当である旨の答申が得られましたので、この給料改定を昭和五十七年四月一日から実施しようとするものでございます。

次に、議案第十二号館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。教育長の給料につきましても、今回、収入役と同額に改定しようとするものでございます。

次に、議案第十三号館山市市税条例の一部を改正する条例の制定についてであります。これは、地方税法の一部改正に関する法案が今国会で審議されており、特に、昭和五十七年度は固定資産の評価替えの基準年度に当たり、これに伴う負担調整の事項も

審議されている関係から、今年度に限り固定資産税及び都市計画税の第一期の納期を一か月繰り下げようとするものでございます。

次に、議案第十四号館山市児童遊園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。本年度設置の青柳児童遊園につきまして、その名称及び位置を条例別表中に新たに加えて、適正な管理、運営を図ろうとするものでございます。

次に、議案第十五号館山市廃棄物処理施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。これは館山市衛生センターが完成したことによる廃棄物処理施設の位置及び名称の変更と、ごみ埋立地としての使用目的を終了した佐野衛生処理場を廃止しようとするものでございます。

次に、議案第十六号館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。これはし尿の収集手数料及び処理手数料の改正をお願いするものでございます。

収集手数料につきましては、現行の十リットルにつき六十四円は昭和五十二年に改正した際の一リットル六円四十銭が基本となっておりまして、すでに五年を経過し、その間における燃料費その他の物価の上昇及び人件費の増加等により収集原価に追いつかなくなり、さらに人件費を除いた衛生センターの維持管理費は一キロリットル当たり四千円、すなわち十リットル当たり四十円が見込まれ、これも収集手数料の中で負担していただく考えで改めようとするものでございます。

処理手数料につきましては、この度完成いたしました衛生セン

ターの設備が高度処理のため維持管理費が従来と比較いたしました増加いたしますので、その内人件費を除いた分を負担していただき、なお、現在二トン車一台一・八キロリットル単位で定めておりますが、許可業者の車両も四トン車、六トン車と大型化してきており、また、必ずしも満載して投入に來るとは限りませんので一キロリットル単位に改めようとするものでございます。

この改正に当たりましては慎重に検討をいたしました結果を館山市清掃事業運営審議会に諮問いたしましたところ、いずれも適当と思われる旨の答申を得ましたので、収集手数料につきましては現行の十リットルにつき六十四円を百二十円に、処理手数料につきましては現行の一・八キロリットルにつき三千円を一キロリットルにつき四千円に改め、本年四月一日から実施しようとするものでございます。

次に、議案十七号館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定についてであります。国民健康保険の被保険者が出産した場合、助産費を支給しておりますが、この額を現行八万円から十万円に改めようとするものであります。今回、国の給付改善により補助基準が十万円に改められましたので、これに伴い近隣市町村との均衡を図りながら被保険者の負担軽減を図ろうとするものでございます。

次に、議案第十八号館山市防災会議条例の一部を改正する条例の制定についてであります。防災会議の委員構成につきまして、県、市及び関係公共機関の実態に合わせようとするものでございます。

次に議案十九号館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定

についてでありますが、消防団員の士気の高揚と体制の充実を期待するため、消防団員の報酬年額を改定しようとするものでございます。

次に、議案第二十号館山市災害等罹災者見舞金給付条例の一部を改正する条例の制定についてでありますが、災害等の罹災者に早期更生の意欲を助長促進する意味において、また、住民福祉の向上を図るために増額しようとするものでございます。

次に、議案第二十一号公有水面埋立免許に関する答申についてであります。これは公有水面埋立法第三条第一項の規定により、館山港湾管理者の長千葉県知事から館山市沼字仲浜一七〇六番五地先から館山市沼字西之浜西九二七番七地先までの公有水面の埋立免許について諮問がありましたので、同条第四項の規定により市議会の議決を求めるものでございます。

次に、議案第二十二号市道路線の認定についてであります。道路法第八条第二項の規定に基づきまして、稲池の内線、藤原佐野線、桜ヶ丘一号線、桜ヶ丘二号線及び下浜田線を市道として認定しようとするものでございます。

次に、議案第二十三号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算（第九号）であります。歳入歳出予算の補正といたしまして、歳入歳出それぞれ五千八百六十三万八千円を追加し、総額九十四億八千八百八万二千元としようとするものでございます。

歳出予算の追加の主なものとしては、赤字地方バス路線を維持するための補助金として、四百六十七万七千円、事業費の変更による県道改良工事負担金、館山港修築工事負担金で九百三十四万八千円、都市計画街路整備事業費で六百六十五万四千円、

これは国庫補助対象事業費の追加が認められたことに伴うものでございます。

また、今後の公債費負担に対処するため、高利率の市債についての繰上げ償還元金等で二千七百万九千円、前年度繰越金のうち、地方財政法第七条の規定により財政調整基金への積立金として二億円、教育費におきまして西岬地区通学用道路関係経費といたしまして四十万三千円の追加をお願いするものでございます。

また、歳出予算の減額補正といたしまして、防災施設資器材整備事業で三千三百六十一万三千円、これは耐震性井戸貯水装置について、建設予定地の水量不足等による事業実施の見送りによるものでございます。

コミュニティ施設用地購入費六百三十万円でございますが、当初購入を予定して予算化いたしましたその一部について、本年度内に契約手続きが完了しませんので減額補正をしようとするものでございます。

生活保護費におきまして、扶助人員の減少と医療費の改定率が低かったことにより五千六十八万八千円、衛生センターの電気使用料で千百万円、これは新施設の試運転開始が三カ月ほど遅れたことによるものでございます。

農免道路整備事業費では、国庫補助対象事業費の減に伴い二千四百六十四万円、事業費の変更による船形、富崎漁港の県営工事負担金で千三百三十八万七千円、地方債利子で六百二十八万七千円、これは昭和五十五年地方債の借入利率が当初見込みより下回ったこと等によるもので、これらが減額の主なものでございます。

この補正財源につきましては、地方交付税、繰越金等で一億七

千百三十万二千円の追加、国、県支出金等で一億千二百六十六万四千円の減額でございます。なお、このほかに西岬地区通学用道路新設工事に係る繰越明許費の補正及び地方債の補正をお願いするものでございます。

次に、議案第二十四号昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第二号）でございますが、歳入歳出それぞれ八千六百二十九万円を減額し、総額二十億五千四百二十四万七千円とするもので、主なものとしては、医療費の改定率が低かったこと等による療養給付費の減に伴うもので、このほか昭和五十五年度決算による繰越金から四千万円を財政調整基金へ積み立てを行うものでございます。

次に、議案第二十五号昭和五十六年度館山市ユースホステル特別会計補正予算（第二号）でございますが、歳入歳出それぞれ六十三万円追加し、総額二千七十八万九千円にしようとするものでございます。

以上が今回提案いたしました議案の概要でございますが、この際当面する諸問題につきまして報告申し上げます。

近代的都市の要件であります上下水道、衛生施設等、生活環境施設については、順次整備を進めており、今後公共下水道の整備が課題となっております。

本事業実施につきましては、市民の深い御理解、御協力を必要とし、また財政上あるいは土地利用上の問題等十分な検討が必要でございます。

現在、関連した都市下水路、その他排水路の年次的な整備により環境保全に努めておりますが、今後諸条件の整いました時点で

公共下水道の事業化を進めてまいりたいと考えております。

道路交通網の整備につきましては、市勢伸展の基盤となる緊要課題と考えますので、国道一二七号バイパス建設を促進する一方、内房線複線化につきましても、県並びに関係市町村とともにその促進に努力してまいりたいと存じます。

次に、館山駅周辺市街地整備でございますが、西口地区にあっては、前年度に実施した館山駅西口地区土地区画整理事業調査に基づき、地区住民の協力を得て現況測量等を実施し、基本計画の策定を行ってまいりたいと考えております。

また、東口地区にあっては、地区住民の合意を得るべく、懇談会、研究会を十分行い予定であり、両地区とも関係住民の御理解と御協力を得ながら推進してまいりたいと考えております。

次に、大規模小売店舗の出店計画についてでございますが、商業活動調整協議会におきまして長い間調整のため審議を続け、本市も国、県とともに特別委員として審議に参画しているところでございます。その間、大規模小売店舗の出店に対する調整方法、抑制等について、昨年九月以来、通商産業省の審議が続けられておりましたが、審議の結果、当分の間法律改正は行わず、地域の実情に即した国、県の行政指導によって調整の運用を図ることとされ、その旨去る二月通達を受けました。

本市といたしましては、法の趣旨、国等の行政指導を十分踏まえ、中小事業者の事業活動の円滑化に努めるとともに、消費者ニーズに適応した魅力ある商業集積を考えながら、大規模小売店舗の出店問題に対処してまいる所存でございます。

以上、私の所信とこのたび提案いたしました案件の概要を説明

いたしますとともに、当面の諸問題について報告いたしました。が詳細につきましては、御質問に応じ、私または事務担当者からお答えいたしたいと存じます。

なお、本市助役がこの三月三十一日をもって任期満了となりますので、この選任方について市議会の同意を得たく、追加議案の上程をお願いする予定でございます。

よろしく御審議くださるようお願いいたします。

○議長（林 豊君） 以上で施政方針並びに各議案の提案理由の説明を終わります。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第五、議案第二十六号館山市条例改廃請求に係る条例の制定についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

提 案 理 由 の 説 明

○議長（林 豊君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第二十六号館山市条例改廃請求に係る条例の制定について提案理由の説明を申し上げます。

去る二月十七日地方自治法第七十四条第一項の規定による館山市立中学校設置条例及び館山市立小学校設置条例の改廃に係る直接請求を受理したので、同条第三項の規定により別紙のとおり意見を付けて提出するものであります。

○議長（林 豊君） 以上で説明は終わりました。

暫時休憩いたします。

午前十一時十二分 休 憩

午後 一時 八分 再 開

○議長（林 豊君） 午後の出席議員数二十六名、休憩前に引き続き会議を開きます。

質 疑 応 答

○議長（林 豊君） 御質疑を願います。

○一番（神田守隆君） 議案第二十六号住民から出された直接請求について執行部の御答弁を賜りたいと思いますので、質問いたします。

全部で五点にわたりますので、質問には確実に答えをいただきたい、答弁漏れのないように、まず冒頭をお願いいたします。

まず、第一点は、去る二月二日、住民の代表の方々と市長は会見をいたしました。このやりとりの中で、教育長は、一昨年度落の説明会で皆さん方住民の反対があれば統合はしないんだとばかり約束したんだ、こういうことについてのやりとりがあったわけですが、市長はそういう事実については承知していない、こういうことを言っておりました。一体、教育長が各部落を回って、一昨年その説明会の中で、住民の反対があれば統合を強行するものではないんだ、こういうことを言ったのが事実なのかどうなのか。事実とすれば、現在、西岬住民の過半数が反対の意思表示をしている現在、結果的に住民をだましたことになると思いませんか。このことについて教育長の御答弁をお願いいたし

ます。

次に、市長にお聞きします。二月二日の市長会見で、市長は教育長がそういうことを言ったかどうかは知らない、こういうふうに言うわけがありますが、しかし一昨年、五十五年の九月の定例議会の場で、この議場で、教育長は私の質問に対してこういうふうに答えています。「それから、反対の意思表示があった場合にどうするんだ。これは部落をまわつてもはつきり申し上げておりますが、地域住民の絶対反対という意思があれば、それを押してもやろうという考えはありません。」、これはきちんとして議事録に残っている言葉であります。市長もその席に座っていた、こういうふうに議事録になっているわけでもあります。この答弁は教育長のやったことで市長は責任がないと思つていいのですか。執行部は議会をもだますのですか。お答えを願いたいと思います。

第二点、通学費についてであります。

館山市の通学費の父母負担は大変に高いものであります。半額補助ということで神余地区の方は四千五百円もの負担をし、統合反対の声に押されて、市当局は父母負担の限度額を三千五百円にするとのことでありますが、それでも近隣市町村に比べて断然館山は高い。具体的に申し上げますと、鴨川はたとえば月額最高父母負担額は七百五十円ですし、富山中学などはスクールバスで父母負担はゼロとなっています。千倉町では月五百円、鋸南では百円、丸山町では八百円です。館山のこの学校統合が他の市町村に比べてもどんなにか父母にその犠牲を強要するものであるかは明らかであります。近隣市町村の通学費の父母負担などに比べて高過ぎると思わないのかどうかお答えを願いたいと思います。

す。

第三点、東金市では十年前に三校あった中学を一校に統合してしまいました、いまでは県内一のマンモス校になっていることは御存じのことと思います。この東金中学の校長先生とお話をしましたが、生徒数が多いために一人一人の子供がつかめないのも困る。しかし特に困るのは、遠隔地から通学する子供たちのことだ。約十三キロ——館山の西岬と同じであります、約十三キロの道のりを運転本数の少ないバスで通学してくる子供たちがいるが、学校の運営はすべてこれらの子供たちに合わせねばならないし、また万一その子供たちが、ちゃんと家まで無事に帰っているかどうか、特に女子の場合等は案じられてならないんだ。こういうことを話していました。校長先生も統合には大変な危惧を表明したわけであります。

特に、防犯上の問題について、神余や九重地区でも父兄が学校から帰る子供を案じてバス停まで出迎えていると聞いています。そういう先生あるいは親の心配、こういうものに市当局はどうこたえてくれるのですか。お答えを願いたいと思います。

第四点、昨日西岬の父兄が願書と称しまして各議員さん方のお宅を回っていたことと思いますが、この中で就学通知書を返却する旨が述べてあります。さらに「万一、統廃合を実施した場合、われわれは登校拒否をも目下考慮中であります」と、せっば詰まつた心情を述べています。子供たちの教育のこと、明日のことを考えるあまりこうした心情に立つたものと考えますが、市当局は西岬の父兄のこの思いをどのように考えているのか。登校拒否という、いわゆる同盟休校の状態が現実となった場合、市当局の責

任は重大であると考えるわけですが、市当局はその責任をどのように考えているのかお答えを願いたいと思います。

第五点、統合の経過と称しましてこれが先ほど議場で配られました。この内容についてお聞きをいたします。

まず、この文書はだれが責任をもって書いた文書なのか明らかにしていません。これは教育委員会が出したもののなのか、市当局が出したもののなのかまずお聞かせ願いたいと思います。

その上で、昨年は十五部落を回っての説明会に八百八十五人、西岬の地区の人々が参加をしておるわけでありす。失礼いたしました一昨年です。一昨年は十五部落を回っての説明会、八百八十五人合計で西岬地区の人々が参加をした、そしてそういう中で学校統合は時期尚早であるとの結論を得て、五十六年度の統合を見送ったわけでありす。

ところで、今回各部落PTAに話し合いの場を持つとコミュニティに回答しておりますね。この配られたものの二ページ目です。コミュニティ委員会に六月十七日、次の事項につき回答するということで三項ありました。その中で各部落PTAに話し合いの場を持つということを回答してあります。にもかかわらず統合決定に至るまで部落の集会はこの文書によりますと伊戸のみにいて行われている。それ以外については行われていないわけでありす。これは教育委員会自身が回答したこと自身やっていない。これはどういうふうに御説明なさるのか。

さらに、東小PTAの総会、あるいは西小、西岬中学のPTAの総会など、集まりを開いていることはわかります。西岬住民から統合賛成との意思表示をそうした集会で行ったのかどう

なのか。ただ説明をやったと、その際何人来たのかわかりません。こういうことでは住民の了解を得たということは言えないのではないか、こういうふうに思うわけでありす。御説明を願いたいと思います。

○議長（林 豊君） 一番議員君に申し上げます。

いま質問の中で、第五項の件についてでございますけれども、この教育委員会の統合の経過というものにつきましては、議長が教育委員会に対して、議会の運営上必要なものであるから回答してくれということで、私が教育委員会に依頼したものでございます。

その他の件については、ただいま当局より答弁を求めます。

○教育長（安田豊作君） 私からお答えいたしますが、第一点は、反対があれば統合しないということを言った事実があるかということですが、これは言いました。

この意味は、やはり統合の意味を理解し、納得の上で統合というものが行われることが望ましいと、こう考えたからそういう発言をいたしました。あるいはそれが議会の質問の中でそういう答えをした事があるからですか、それもあつたと思います。考え方は一貫しております。

ただし、一人でも反対があればしないのか、こういう聞き方をされるとまたそこに違いが出てくるわけでございますが、そうした反対の方があれば、そういう方に理解を得るまで根強く説得といたしますか、話し合いを続けたいと、こういう意味を込めての発言でございます。

それから、第二点の父母負担の三千五百円というのは高いじゃ

ないかと、御指摘のようにこの周辺の市町村と比べると高いようです。しかし三千五百円ということは、西岬の父兄の皆さんに耐えられない金額ではないという判断を私はしてあるわけでありま
す。それが一つ。（傍聴席にて発言する者あり）

それから、三点の東金市の例でございますけれども、三校統合
したという、これは今回の館山市と比較されては意味が全然違う
わけでございます。東金市の三校の統合というのは、もともと適
正規模の、いわば適正規模の学校を三校一緒にした。そのために
統合したための、東金市の東金中の統合の意味は、そのために施
設も充実しました。県下でも有数といえますが、県下一等の設備
ができた。あるいは視聴覚器具、その他も県下で右に出るもの
ない設備ができた。そういうようなことで、一校になるといふこ
とはそれだけの充実度といえますが、そういうあれが市としてで
きることと、それはそのまま私は意味があったと思えます
が、今日、私どもが、館山市がもっている西岬、二中の統合につ
いてはいわゆる適正規模にするための統合であります。したがっ
て、もとの二中、これは分割して三中を新設するという意味をよ
く考えていただきたいところ思うわけであります。ですから適正
規模による統廃合である。館山市は、ですから東金市との意味は
違う。こういうふうにお考えいただきたいと思えます。

それから、第四点の就学通知書は十五通送り返されてきました。
それから、それについての願書が出たということです。これ
は直接私のところに来ませんけれども、見せていただきました。
おっしゃる意味は聞いておりますけれども、その中に同盟休校も
云々ということが一行ちょっとありますけれども、そういう事態

にならないように私はお願いしたいなという気持ちでいっばいで
ございます。ということは、やはり今回の一部反対がある……

（傍聴席にて発言する者あり）

○議長（林 豊君） 傍聴人に申し上げます。

静粛に願います。

○教育長（安田豊作君） 同盟休校のようなことにならないように
したいと、それは結局そういう一部反対の方の……

（傍聴席にて発言する者あり）

○議長（林 豊君） 傍聴人に申し上げます。

議場は静粛に願います。あなた方が議事について可否を表明し
たりすることは違反であります。この上、もし議事を妨害するよ
うなことがあれば、議長の命令によって退場していただきます。

どうぞ続けてください。

○教育長（安田豊作君） そうしたことが起こった場合、子供に犠
牲がいくわけであります。それを私どもは一番おそれるわけで
あります。

第五点は、さっき議長から説明があったようでございますので、
お答えは省かせていただきます。

○市長（半澤良一君） 教育長が反対があれば統合はしないといっ
たという内容については、ただいま教育長が答弁いたしたように
私も理解をいたしております。

今回の統合については、教育委員会において適正規模の学校を
つくる事によって、教育諸条件を整備する事によって、より理想
的な教育を行いたいとする熱意、努力から生まれたものでありま
して、その実態が、そういう熱意が議会においては、十二月議会

において大多数の議員の皆様方から御承認を得て、賛成をいただいておりますが、地元の方々に御理解をいただけなかったことは大変残念なことでございますが、今後とも御理解得られるように努力をいたしたいと考えております。

○一番（神田守隆君）　そうしますと、教育長さんが議会で御発言した、住民の反対があれば押してもこの統合はやる気はないんだ、こういうふうに答えたというのはうそだったということなんですか。

納得の上で統合したほうがよいと思う、あたりまえじゃないですか、そんなことは。あのときは納得した上で統合するという話だったんでしょ。ところが納得してないじゃないですか。

いまでも一部なんて言葉を言ってますけれども、住民の皆さん方一部じゃないですよ。これはだれが見ても明らかでしょう。選挙管理委員会がいちいち全部チェックしたんです。確かに有権者の過半数だということをやったわけです。それをいまさら一部だなんだかんたんだということを言って、住民の納得の上で統合問題については進む、こういうふうに議会で答弁したのは、あれは現時点ではうそだった、こういうことですね。市長さんは率直に認めましたね、御理解いただけなかったのは残念だと。ちゃんと訂正してください、あれはうそです。そしてその上ではっきり責任をもっていただいたいです。どういうふうにこの責任について考えておるのか、それをお聞かせください。

通学費について、西岬の父兄が耐えられない金額ではない、何を根拠にこんなことを言うんですか。根拠を明らかにしてください。なぜ館山市の父兄は他の近隣の町村に比べて大変に裕福だと

いう御理解なんですか。

さらに、東金の問題ですが、校長先生はよく言っていました。学校は施設ではありません。どんなに立派な施設をつくっても、施設によって学校のよしあしは決まるものではありませんとかなかなかやはり、教育に携わってきた方の言葉として、そうなんだろうなというふうに私もしみじみ思いました。

特に、非常な遠距離通学を強いられることになる。父兄の皆さんが子供の帰りが心配だと、もし何らかの事故があったり、こういう場合にはちゃんと市当局は責任をとってくれるんですか、対策をとってくれるんですか。ちゃんと答えてください。すでに統合した東金中学では校長先生が大変困っておられる。教育委員会にも行きました。教育委員会の方も一番困っていました。

それから、第四点。これはもう登校拒否という事態になった場合、あげてその責任は住民を無視して学校統合を強行したという、こういう市当局の姿勢にある。このことは嚴重に申し入れておきます。

統合の経過の問題ですが、一昨年八百八十五人の方と話し合いをした、こういうふうに答えているわけです。今度の統合を決めるにあたってそれぞれいろいろな集会をもったんでしょ。実数何人の方の了解を得たんですか。そうした調査をしていますか。お答え願います。

○教育長（安田豊作君）　私の、さっきの質問に対して、御理解をいただけないので非常に残念なんです。うそを言った、うそじゃない、うそで事実を言っているわけです。ですから、全員の方の承認を得るように努力してきたし、さらに続けるつもりである、そう

いう意味だからいままでも反対があれば統合しないということの発言はうそを言ったとは私は思っていないし、それから過半数の反対がある、過半数の反対があったにしても半分近い——そのままだ御発言を聞いても、賛成の方は半数近くあるわけです。しかし、過半数とおっしゃるその意味を私なりに考えてみますと、過半数とおっしゃるのは、直接請求に署名された方をもって即反対という、こういうようにお考えのようでございますが、そういう署名を求められたんじゃないでしょう。これは直接請求するんだから、それに賛成の方の署名を求めている、その目的は達せられている。現在ここで再討議されているんじゃないですか。それで請求の目的は達せられた、こういうようにお考えいただければいいんじゃないかと、こう思います。

それから、第二の通学費が耐えられないというあれですが、根拠はといいます、西岬地区の所得や収入を私いまここでつまびらかに知っているわけではありませんけれども、ただ何回か部落を回って説明会を開いている、その応答の中で、西岬の皆さんがわれわれは通学費が、要するに金がないから統合に反対しているんではないんだという発言を一回でなく聞いております。そういうことも、これこそそうでない、本当の、真からのお考えだと思えます。そういうことも聞いておりますので、さっきのような答弁を申し上げたわけでございます。

それから、東金中の問題が出ました、通学途中での事故云々があったときに責任をとるか。いろいろ問題があれば、責任をだれがとるかという点は当然出てくるわけでありまして。通学の往復における管理責任は学校、ひいては教育委員会のもつことになって

いますから、そういう意味ではもつけれども、通学の事故を一切もつか、こういう問いに対してははいという答えはできないと思えます。これはおのおのそのときの事故の責任といえますか、所在をつまびらかにして、その上での責任の所在を、責任をとる、こういうことだと思えます。

それから、統合を強行した場合に、同盟休校とかそういう問題が起こった責任は一切教育委員会にあるんだ。これはちょっとわからないんですが、私どもはさっきから、第一項でもお話し申し上げているように、決して強行しようという意図でやっているわけではないんです。やはり民主主義のルールで（傍聴席にて発言する者あり）第五点にありますけれども、やはり多数決の原理とそうして代表制の原理とを考えた上で、おのおのその責務、責任の上で話を進めていく。最も民主的な決め方というのは議会制民主主義で、この場で決めていただくのが最も、市民の代表である議員の皆さんに決めていただくのが最も正しい民主主義の決め方だというふうに私は認識しているわけでありまして。

したがって、五の一昨年は部落を回って八百八十五人と話し合った。今回は何人と話し合ったかということですが、そういう人の数といえますか、実質の人数はあるいは少ないかもしれません。しかし区長さんとか、コミニティ委員とか、あるいは学校統合対策専門委員とか、そういう一つの役職、組織と話し合ったんで、それから私どもはいままでも西岬全地域の皆さんと話し合いをし、積み上げて今日に至ったと、こういうふうに私は解釈しておりますし、またそういうように解釈していただきたい、こう思っているわけでありまして。

以上。

○一番（神田守隆君） 議会制民主主義というお話ですから、議会の場で決めるのが民主主義だ。もちろん私もそう思っているわけでありませうけれども、しかしこの議会で決めるにあたっては、住民の同意があったのかなかったのかということは重要なポイントなんですよ。

当局は住民の同意を得たんだという説明をして、また住民の同意がなければこんなものやらないんだ、押してもやる気はないんだということを再三言ってきたでしょう。だからそうだと思っているわけですよ。ところがいざやってみたら住民は反対だと、だまされたのは議会ですよ。違いますか。議会制民主主義というのはそんな形式的なものじゃないんですよ。形式的に済めば済むというものじゃないんですよ。

それから、コミュニティ委員ですか、区長さん、専門委員の方組織の方と話し合いをしてきた、大変結構なことだと思います。当然やらなければならぬことです。しかし、一昨年はさらに進んで部落の方とひざを交えて全部説明会やったわけですよ。そして昨年についてもやりましうということを言ったわけでしょう。なぜやらないんですか。それをやっていればもっと住民の中の意向がどうなのかというのが正確につかめたでしょうし、こんな問題も起きなかつたんですよ。

市長さん、これは教育長がやった問題だと言いますけれども、市長さんの責任もあるわけです。こういう住民の意向を十分教育長が把握してこの学校統合をやったものだというふうにいまでも思っていますか。先ほどは御理解をいただけなかったことは残念だと

率直に認めたわけですが、その点は御確認していいのかわか。

教育長さん、市長さん、それぞれお答えを願いたいと思います。○教育長（安田豊作君） 住民の個々と話し合いを一昨年はしたのに今回はしなかつたんじゃないか。しなかつたと言われると、これもまたちょっと違いまして、できるだけはやりました。やった区の名前を言えと言えは挙げてもいいですけれども、話せるだけは話したつもりです。

ただ、その途中でできなかった区もある。これは区長さんとかその他もお願いしましたけれども、わかっているよと、来なくてもいいよ、こういうお話のところは行けなかつた。

そういう意味で、個々とも話し合つたし、しかもそうした意見を組織を通して話し合いを積み重ねてきた。そして、住民の同意が得られたものという、こういう判断を私はしたわけでございます（「区長に責任を転嫁するんですか」と呼ぶ者あり）そういうふうに私は解釈して、現在に至っている、こういうふうに認識していただきたいと思います。

○市長（半澤良一君） 教育長は私が任命をいたしましたして、そして議会の御承認を得ているわけでございます。教育行政に関しては全幅の信頼を置いて教育長にやらせてもらっているわけでありまして、教育長はただいま答弁いたしましたように、私がわきから見ていまして、大変努力をしてきたというふうに理解をしております。そういう意味で教育長のいろいろな報告、そのとおりには私に受け持っているわけでありまして。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の質疑を終わります。

他に御質疑ありませんか。

○二九番（安西益男君） 中学統合の問題につきましては、前回、前議会まで大体質疑がされたというふうに思っておりますが、なお確認の意味で何点かお聞かせいただきたい、このように思うわけであります。

今回、実施されようとする中学の統合問題、これは本日も多くの強い関心を持った人たち、なお、地元にもかなりの同じ関心を持った人がおるうかと思いますが、この件につきましては数年前より地元の方たちに何遍となく趣旨説明をされてきたというふうに伺っておりますし、またそのように思っております。しかしながら現状ではその点が全体的といえますか、下部まで徹底されていなかったのかなという感を持つわけでありますが、これは当局の立場としても全員に一人一人というわけにもいかない、やはり代表の方たちとも会う機会、あるいはコミュニティ関係、そういった総意をもって十二月の議会で議決されたというふうに思うわけですが、その間の、いまなお相当強い関心を持たれている方が多いと思いますが、その間の事情についてお聞かせをいただきたいと思います。その点が一点。

十二月の時点では、地元の各要望がたくさんあったわけですが、これを受け入れて議決したという経過になっております。私たちもそのように信じております。またこの経過について、この間の要望に対し、地元においての話し合い、その点についてももう一遍お聞かせいただきたい、このように思うわけであります。

御存じのように、十二月には議決とともに相当な地元の要望に對する予算、たとえば通学道路もかなりの予算、それもすでに着

手している、そういう方向にありますし、また合わせて新年度における統合に對する予算もかなり組まれておると思いますが、これも御参考に、どのように予算を今後、組まれておるし、また今後についても進められていかれるかについて、その点についてお聞かせいただきたいと思ひます。

それから、統合の目的、理由、効果、その点についてそれなりのお考えがあつてのことだと思ひますが、なお一層効果、そういった点についてお聞かせいただければと思ひます。

さらに、県の教育委員会の考え方、あるいは文部省の方針、なおまた先般チラシ等では森代議士さんが協力を約束されているというところでございますが、どんな約束をされたか。その点を知つていたらその点もひとつ。補助金カットということでございますか、お聞かせいただきたいと思います。

なお、幾つか順次項目的にお聞かせいただきたいと思います。コミュニティ委員会、それから区長会、専門委員会等でのこれまでの話し合った経過、そのような状況についてひとつお聞かせいただきたいと思います。

それから、特に大きな反対の理由ということでは、非行化がふえるであろう、この点はどのような対策を立てていかれるか。

また、通学費の問題についても、先ほど来論議されているようにございますが、一層の考え方があるとすれば、そういう面をひとつお聞かせ願ひたいと思ひます。

それから、やはり心配されている点としては、通学児童の帰宅の時間、これ等も本当に安心できるのかどうか。そういった点も合わせてお聞かせいただきたいと思います。

それから、見方によってどんなふうにお考え、いろいろと見方があると思いますけれども、遠距離で肉体的にも大変じゃないか、そういったふうに心配されているというように聞いていますが、そういった点の見通しは当局としては心配されているのか。心配ないのかどうか。その点もお考えがあればお聞かせいただきたい。

なお一層これからの問題については、願書ということで各議員さんのところを回ったようですが、就学通知十五名返却されたというふうに言われていますが、場合によっては登校拒否も辞さないというふうでございますが、まことにこれは残念でありますし、児童の方たちも大変かわいそうだなという気持ちを持っておりますが、もしそういった事態になった場合にはどんなふうな措置を考えていかれるのか。これもひとつお聞かせいただきたいというふうに思うわけでございます。

いずれにしても、これから年々児童は減少されてくる、減少されてくる、こういった点もかなり当局の考え方もあったと思いますが、こういった点の今後の状況といえますか、数年間にわたっての減少の状況、それもひとつお聞かせいただきたいと思えます。それからもう一つ、中学校のあとに小学校が来るということのようでございますから、それについていま通学道路が計画されておりますけれども、さらに波左間の旧県道、それから新県道に通ずる通学道路、これは計画されておるといふふうに聞いておりますが、その点の見通し、三月いっぱいにはできるかどうか。それもひとつお聞かせいただきたい。

聞くところによりますと、署名にも重複した方が相当数あったということですが、この状況についてひとつお聞かせいただきたい

い。

それだけの点についてお聞かせいただきたいと思えます。

○教育長（安田豊作君） 第一項目は、趣旨がすみずみまで徹底しなかつたきらいがないか、この点はあるいはそういうきらいもあったんじゃないかという反省ももちます。

しかし、先の神田議員さんの質問にお答えいたしましたように、今回は組織を通して連絡といえますが、御意見を聞き、話し合いを進めるといふ考え方をとりました。しかしそのほかにPTAの役員会、一番関心持つところの。あるいは総会というのを何回かもっています。したがってかなりのところまで徹底しているものと私どもは踏んでいるわけでございますけれども、十二月議会のあとさらに話し合いをもちたいということで、区長さんその他にもお話し合いの機会をもってもらいようにお願いしましたけれども、その話の中でもう必要ないんだと、話の趣旨はそれこそこれはすみずみまでだと思えますが話はわかっているんだ、ただ正式ルートといえますが、ルートの中で、さっきから私民主主義のルールを強調いたしましたけれども、そうした委任というものの、あるいは委任されたというその問題についての意思疎通といえますか、そういうきらいがあったんじゃないかならうか。ですから私どもが話そうとする内容そのものについては皆さんが承知しているんだ、こういうふうに私は考えております。

それから、要望事項について、要望の第一は、小学校を統合した場合にあそこが吹き降りの際に、小さな一年生なんかが行くのに困るんだということで、最大の希望といえますか、要望は通学道路の新設というふうに踏んで十二月議会にお願いして、その道

路の確保、これも地元の地主の方の非常な御協力をいただいて見通しがつきました。

それから、通学費の問題については、当初半額補助ということとやりましたけれども、その額が他地区と比べて非常に高くなるということと、と同時に通学費が高くなるということは、それだけ他地区よりも多くバスに乗るといいますか、時間がかかる。さっきもお話がありました、能力的に子供の疲労といえますか、そういうものにも影響するんだらうということで、むしろ逆に安くするわけにもいきませんので、頭打ちという方法を考えて、父兄負担を三千五百円の頭打ちという方式でいま考えておるわけでございます。

そのほか、校舎の建築その他、あるいは跡地の利用の問題、これは地元の要望を十二分に入れていく、こういうことで考えております。(傍聴席にて発言する者あり)

それから、統合の効果。これはもう再三この点については申し上げて、地区の皆さんもそれはよくわかっていられるよというのはこの意味だろうと思います。このところはよくわかっていられるんだよ、こういうことだろうと思います。しかし、統合の第一の狙いはやはり専門教師によって学習効率を上げる、これは学校ですからそれを第一に狙う。それから学校経営といえますか、物とか人的なものも最も効率のある使い方を、むだのないようにしたい。それがやはり適正規模という学校じゃないだろうかと思ひます。

そのほか、いまの教育の考え方は、単なる勉強だけでなく、子供同士がみがき合い、切磋琢磨し、体を鍛え、心をみがいてい

く、そういうことが必要なんで、生徒会、クラブ活動が十分にできるような場所もそうですし、組織そのものが必要になってくるそういう点も考えて……。単なる空論でなく、事実においてそういうことになるわけでございまして、いままでの経験からそのようなことを申し上げております。

それから、県とか文部省とか、あるいは代議士さんのところへ反対といえますか、地元の皆さんが陳情に行ったということで、その都度私呼び出されまして、聞いております。そうした趣旨を踏まえて、ですから県も文部省も私どもがいま進めていることについての了解をとってある、こういうふうに簡単にお考えいただいて結構でございます。

それから、生徒数の変化でございますが、現在が西岬中が百五十七ですか、これが三年ぐらい大体その数でいきますけれども、それからだんだん十人ぐらいずつ減って、現在一歳の子供が入る昭和六十八年度になると百二人ということで、学級数は現在が六学級です。六学級というのは特殊を入れて六学級です。六十八年になると、特殊を入れて四学級ですから、普通学級は一学級ということになります。要するに一年が一学級、二年が一学級、三年が一学級、こういうことになって、現在も小規模の仲間ですけれども、さらに規模が小さくなり、中学としての零細規模、そういうような非常な問題を持つ、こういうことが言えると思ひます。

それから、非行の問題が出ましたが、これは小さな学校のほうが生徒と先生の触れ合いが細やかですか、非行は少ないんだという考え方を持っている方があるようにすけれども、この問題は必ずしもそういうことは言えないと、これは意味が違ふと思ひます。

現在の教育の運営の中で、ですから大きい学校は非行になるんだ、小さい学校は非行はないんだ、こういうふうに割り切るわけにはいかない。小さな学校でも非行がある場合もあるし、大きな学校は必ず非行が出てくる、こういうことは言えないと思います。こういうことについて、今回の統合について心配の向きもあるので、十分学校とも連絡して、そういうことのないように努力したいと思いますし、さらに生徒指導主事ということでそうした生徒の指導、あるいは非行や暴力の指導に専門にあたる先生が統合の時は配置される、こういうことでございますので、そういうことで対処していきたい。

通学費の問題は、さっきちょっと触れました。

それから、通学に基づく帰宅時間の問題でございます。これも心配の向きが地元にはあります。この点についてはこういうことで説明しております。

中学、これは通学時間の問題も関係しますけれども、一番遠い伊戸、西川名から——これは伊戸から出ますけれども、バスが、朝の通学を例に取りますと、七時一分に出るというのがあるんです。大体その前後に四本の通学バス現在出ています。これは高校生が乗っています。数からいくと、四台のバスに分乗すれば数の上では乗れるんだということですが、私どもがお願いして、国鉄自動車区のほうではさらに一台増発するというところでございます。そのバスは、ちなみに見ますと、七時一分に伊戸発のバスが館山駅着七時三十五分です。ですから電々公社前はその二分ぐらい前の七時三十三分になる。ですから通学のバスの通学時間というのは三十二分、こういうことでございます。したがって、いま中学

生が三十二分の通学ということとは普通といえる、こういうふうに考えているわけでございます。二キロ歩く子供も、あるいは四キロ自転車を通う子供もほとんど三十分ぐらい、要するに三十分という通学時間というのは普通だと、むしろそのぐらいが望ましいんだという考え方を持っておるわけでございます。

したがって、帰宅時間の問題も、家庭に到着の時間に、危険のない時間に帰す、こういうのが学校運営といえますか、生徒指導の原則でございます。これはもちろん学校と連絡をとってやるつもりでございしますが、西岬中学へ現在も女子生徒はバスで通っております。その子供が乗るバスは館山駅から出る。ですから同じバスです。その乗る時間が違う、二十分早く乗るんだ、こういうことで御理解いただければおわかりいただけると思います。

それから、肉体的苦痛の問題は、いま御説明しましたので、そういうことで御理解いただければわかると思います。

それから、十五名の皆さんの入学通知の問題でございすけれども、これにはいろいろの意味、どういうお考えがあるか、もう少し話し合いをしてみなければいけないと思います。ということは、この方は今日の、この、いまの会議が済まないうちは統合と決まっていんだ、こういうお考えで、だから受け取れないんだ、こういうお考えかもしれないし、ですから今日の結果によってはお受け取りになる、というようにも考えられるかもしれません。

それから、さっきもお答えいたしましたように、突き詰めていけば子供さん自体にしわ寄せがくる、そういうことのないようなことで話し合いを私どもはしていきたい、こう思っております。できるだけそういう方向で……。

それから、道路の問題でございますが、いまの私どもの計画では、ちょっと遅れて申しわけありませんでしたが、明日入札に付する。本年度の三月三十一日までのうちに開設する、こういうふうな手はずをとりたいと思います。

それから、署名の中に、質問の意味がどういう意味かあれですが、直接請求をされた、千四百四十九人の西岬地区の署名された方は、すでにその前に統合促進の賛成署名、これは統合反対の署名も行われました。と同時にコミニティ委員会が賛成の署名もとりました。この名簿を突き合わせたときに二百七十三名の重複があります。各区にまたがっております。ですから二百七十三名の方が、直接請求のほうがあとで、ほとんど同時といっているらに行われたかもしれませんけれども、ところによつては、しかし事実としては直接請求のほうがあとでございます（「だれがやった署名ですか」と呼ぶ者あり）、考え方が変わったんだとこう言えばそういうことになるかもしれません、意味が違うんだ、賛成の署名と直接請求の署名とは意味が、考え方が違うんだ、こういうふうに私は……（「議会は受け取っていませんよ」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 待ってください。

○二九番（安西益男君） 考えるところ趣旨の徹底がされていないか、ったような感を持つわけですが、市街地ではちょっと想像つかないわけですので、ちょっと心配だなという感を強くするわけです。いずれにしても、数年前から、かなり前から検討されておったのが、いままって徹底されておらなかったという点につきまして、大変私ども残念に思うわけであります。

非行化については、現在、そういった非行の問題がないように聞いておりますが、以前はどうだったかなという点も、さらにまたこれからずっとふえていくことはないんだということも断言はできませんけれども、この見方は大変むずかしいとわれわれは理解するわけであります。学校が大きいから小さいからないという、こういったことはむずかしいわけでございますが、極力こういった点につきましても十分にひとつ御指導をしていかなければならない。この点は強く要望しておきます。

時間的にも三十分程度でございますので、通学の時間でですね。そういう点では体力的に影響はないという説明でございますので、それもそうかなという感じを持つわけであります。

それから、遠いというところは、洲の崎、西川名、伊戸というふうに思われますが、遠いところの地域の児童は何名ぐらいいるのか。なお、また一家庭に二名ぐらいいるところがあるかどうか。そういった点の御説明をいただきたいと思ひます。

県の教育委員会、文部省でも了解ということであるようでございますが、特にこれはお尋ねしたいんですが、森代議士のお話があったようでありまして、教育委員会にそういった要請があったのかどうか。それをひとつお聞かせいただきたいと思ひます。

それから、統合の効果についてはお話がございましたが、いわゆる専門教師があることによつて学力の向上ということも考えられると思ひます。経営的な問題、それから適正規模という点から、さらに先ほど御答弁になったように六十八年ですか、大量に減つて、五十五名ぐらい減っちゃうということになりますと、その点もやはり心配だなというふうに感じられますので、そういった点

の今後やはり、いずれにしても児童が最もふさわしい教育を受けられる状況をつくっていくことが当局であり教育委員会の使命というふうに感じておりますので、そういった点の十分な配慮をしていただきたいというふうに考えるわけであります。

他については御説明ございましたので……。特に、何点かについてまたお答えをいたしたいと思います。

○教育長（安田豊作君） 遠距離、遠いところの人数をということでございますけれども、来年度洲の崎が二十八人、西川名が十三名、伊戸十名。遠いところはそういうことでございます。

○二九番（安西益男君） それから、登校拒否があった場合ということも、想定することもどうかと思えますけれども、やはりこの点も心配でございます。どうかそういった点ないように十分なる御配慮をいただきたいということを要望いたしまして、以上で終わります。

○議長（林 豊君） 以上で二九番議員君の質疑を終わります。

他に御質疑ありませんか。

○七番（古賀礼四郎君） まず、最初に申し上げておきますが、私は、さっき一番議員さんが、議員がだまされていたんじゃないかとおっしゃいましたけれども、私は教育長さんにだまされていたとは思いません。そんなに判断力のない議員でないと私自身自負しております。判断力を十分持っているから私はだまされたとは感じておりません。それだけちょっと最初にお断りしておきます。それから、学力がかなり、西岬中と二中との差があまりないというチラシを見たわけですけれども、それからチラシの中に西岬中の卒業生の三分の一が安房高に進学しているということで、は

たして私こんなに進学しているのかと思ひまして、一応安房高のほうを調査いたしました。

そうしましたら、五十四年三月が六名、入学者、それから五十五年三月が四名、五十六年三月が十二名、五十七年本年度ですが七名でございます。

それから、さらにもう一步調査を進めまして、それじゃどういう大学に入っているのかと、西岬中学を出て安房高に入って、大学に入っている人、どういう大学に入っているかというのを調べてみました。

そうしますと、五十四年の人が上智大学、駒沢大学、浪人しております、三名ですね。それから五十五年には二名大学に行っておりますが、浪人が一名、駒沢大学一名。五十六年には三名大学に進学しておりますが……

（傍聴席にて発言する者あり）

○議長（林 豊君） 静粛に願います。

○七番（古賀礼四郎君） 浪人一名、横浜国大一名、明治大学一名五十七年度は今度入ったばかりですからまだ……。そういうような形であり、学校の批判というのはわかりませんが、どのくらいがいいのか悪いのか、学力というものはわかりませんが、そんなに飛び抜けて学力が向上してはいないと、西岬中がですね、そう思うわけです。

二中のほうはかなり安房高に、五十名ずつ入っております。それでかなり差があります。

（傍聴席にて発言する者あり）

○議長（林 豊君） 静粛に願います。

○七番（古賀礼四郎君） 大学にも、国立大学等に安房高から三十名ぐらいい入っております。

その比率からいきますと、非常に小さいわけで、特に西岬中が学力が劣っていないということは言いかねるんじゃないかという判断を持っております。

それから、もう一点でございますが、クラブ活動と学力の問題、これは安房高の進学指導の先生に聞いた話ですが、並行する、両立すると言っています。学力のあまりよくなかったとき、進学率のよくなかったときはスポーツ活動も非常に悪くて、せっかく安房高校は柔剣道も強いし、水泳も強かったんですが、このところ低下を来しているというのを伺いました。それから、ですから社会教育、クラブ活動、こういうものは自然と人間関係を養成して……

○議長（林 豊君） 七番議員君に申し上げます。

要旨をまとめて質問をしていただきたいと思えます。

（傍聴席にて発言する者あり）

○七番（古賀礼四郎君） この点についてはわかりますね。学力の差がないというか、学力が特によくはない。

それから、クラブ活動をやって遅く帰りますと、通学時間が三十分位でしようけれども、クラブ活動やりまして学校から帰ると私の経験からも、周りの経験からも見てわかるんですが、一生懸命やって帰ってきますと、非常に疲れております。帰って勉強を二時間ぐらいいしてはたんと寝てしまう。ということとはかえって私はいろんな点でもって非行に走らないんじゃないか。非行は町に出すといけない、進む、二中の方に出すと、そういうことは進

まないんじゃないかという感じがしますが、こういうクラブ活動の並立なんかの調査をなさったことがあるかを聞きたい。クラブ活動と学力の比較検討をなさったことがあるかどうか、いままです。そういうことを二件ばかりお尋ねいたします。

○議長（林 豊君） 暫時休憩いたします。

午後二時二十一分 休 憩

午後二時三十分 再 開

○議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

この際、傍聴人の方に申し上げます。

わが館山市の議会運営規則によりまして、第七条に「傍聴人は傍聴席にあるときは、次の事項を守らなければならない」ということで、そこに掲げてありますとおり、議場において、議場の言論に対して可否を表明したり、拍手を打ったり、あるいは談論をし、放歌をし、高笑いをするというような騒がしい態度をもって、議会を妨害することは固く禁じられております。議会はあくまでも厳粛であります。もし議長の命令に従わないときは、地方自治法第三十条の第一項の規定によりまして、退場を命じますので、念のために申し添えます。

答弁を求めます。

○教育長（安田豊作君） 西岬中の学力がどうかという問題についての御質問のように受け取りましたが、非常にむずかしい問題でございます。

前々から専門教師による教育が大事だということを強調しておりましたが、西岬中においては専門教師による授業が五五％、それから臨時免許状といえますか、仮に許可を受けて指導する、要

するに体育の免許状を持たない国語の先生が体育を教えるという形で行われる授業が四五%あるわけでございます。それがそういう、要するに臨時免許状による教育が、効果が百%あるということとを要求するということは無理なことは当然です。そのために、そういう授業が行われないようにするために統合という、これは教育委員会の責任だということで、今回のような統合の問題をお願いしているようなわけでございます。

したがって、前々から何で違うんだということを部落座談会なんかでも聞かれたこともありすけれども、私の口からそれを言うことは差し控えさせていただきたいと思ひます。

ただ、表面にあらわれたことだけ申し上げますと、古賀議員さんは安房高への進学の数とか、こういうものをおっしゃいましたが、それは間違いないと思ひますが、私は角度を変えて、こういうことで申し上げてみたいと思ひます。

西岬中は勉強も運動も非常に優れているんだということでございましたが、全国的なレベルで賞なり優勝なりとかあるかということ調べてみますと、読書感想文が千葉県で一位をとって、そして全国で優良になっております。これが五十五年でございます。それから、運動のほうではバレーが四十七年でございますけれども県で優勝、そういう成績を収めています。

これを二中と比べてみますと、二中は全国レベルにおいて、本年も全国中学校剣道大会で全国優勝している。いわゆる日本一になっております。日本一になったのはそのほかに三十七年ですけれども、全国中学校水泳大会で全国優勝をしております。ですから全国優勝が二回、そのほかに全国表彰を受けたのが六回、計全

国レベルで優勝ないしトップの賞を得たものが八回ある。

こういうことを比較してみると、運動、勉強ともに、そこにはおのずから差がある。それはさっき言ったような教員の、個々の教員の罪じゃない、これは私どもの設置の問題だ、こういうふうに私は考えて、こういう差があるのは私どもの責任だ、こういうことを私は考えております。

それから、なおクラブ活動と学力の相関についてどうだ、こういうことでございますが、小学校レベルでは運動と学力は極めて相関が強いようです。ですから勉強のできる子は運動も非常に優れている。中学校、高校と上がるに従ってその相関はだんだん少なくなってきました。

ただ、運動と相関は、さっきから一番問題になっております非行の問題、暴力の問題になりますが、そういうものと施設の中で運動場の広さというのが非常な相関を持ってきているということとを過去のデータから私はつかむことができた。したがって、今後の統合の中でも小学校の運動場の狭さというものについて非常な問題を感じて、中学校の統合ないし小学校の統合を進めよう、こういうことにしました。

ただし、西岬中だけを考えると、西岬中は敷地は一一六%で、中学だけ考えればいいわけでございます。そういう意味ではないと思ひますが、そういうお答えでよろしゅうございますかどうか、以上でございます。

○七番（古賀礼四郎君） 了解いたしました。

質疑は十二月の議会でも、私が危惧に感じてたことは大体了解しまして、それ以外のことをお尋ねしたわけでございます。

もう一点だけ、ちょっと聞かしていただきます。

子供の意識を、子供の考え方、私は二中に進んだらいいんだろ
うか、西岬中に進んだらいいだろうかというようなことを調査な
さったことがございますか。

○教育長（安田豊作君） 結論からいきますと、ありません。

ということは、こういう要するに教育環境を整えるというのが
大人の責任でありますし、教育委員会の責任であるということで、
子供はそういういい環境の中に入れてやるということが責務だと
いう考え方から、子供じかにについての調査はいたしておりません。
以上です。

○七番（古賀礼四郎君） 終わります。

○議長（林 豊君） 以上で七番議員君の質疑を終わります。

他に御質疑ありませんか。

○一九番（石井輝久君） 若干御質問申し上げます。

先ほどの質疑を通じて、執行部御当局は完全な合意が得ら
れないうちは統合を進めないことを言明されておられた。当議会
でもそのように言明された。しからば、現在統合を促進しよう
としておられる、これは二枚舌使ったんじゃないか、先ほどの表
現をもつてするならば、議会をだましたことになりはしないかと
いう御発言に関連をしましてお伺いをしますが、現時点でどのよ
うな、いまのことに関して理解をしておられるか。若干重複
するようでございますけれども、ひとつこれは重大な議会で、の発
言でございますので、再度私からもお答えを求めます。重複する
ようでございますが。

それから、来る十六日に当初予算の審議が行われるわけでござ

います。これに先立ちまして予算書をお持ちして若干の質問を
したいと存じます。

まず、予算書の二三ページでございます。これは小学校費の
中の十三節委託料でございますが、この委託料の中に西岬小学
校歌作詞作曲委託料百万円の計上をしておられますが、この内容
につきまして御説明を求めます。

引き続きまして、一三五ページで学校建設費のうち十三節委託
料で西岬小学校校舎増築工事設計監理委託料が計上されてござい
ますが、これはどういう内容を持っておるものでございますか、
御説明を求めます。

次、一三六ページ西岬小学校校舎増築工事請負費がうたってご
ざいますが、この内容の説明を求めます。（「おかしいな」と
呼ぶ者あり）

引き続きまして、一三八ページ補助金一千三百六十三万九千円
を負担金補助及び交付金で計上されておられますが、この内訳
につきましてお伺いをいたします。

以上、質問いたします。

○議長（林 豊君） 一九番君に申し上げますが、当初予算に関す
る質疑が集中しておるようにも受け取れるんですが、当初予算の
質疑につきましては、後刻特別委員会もしくは一般質疑の中でや
っていただきたいというふうに考えますが、いかがでございます
か。

○一九番（石井輝久君） それは予算ですから、ですから先ほど冒
頭に申し上げました十六日に当初予算案の審査が行われるけれど
も、これに先立って予算書をもって若干の質問を申し上げますと

申し上げたわけでございますが、何かの都合で、これは西岬小学校と中学校に関連する予算でございますから、あえて質問申し上げますが、次の機会にお答えをいただくんならそれでもよろしゅうございます。いかようにでも、もし何なら一たん休憩して議運でお諮りいたしても結構でございますが。(笑声)

○議長(林 豊君) 暫時休憩いたします。

午後二時三十四分 休 憩

午後二時五十五分 再 開

○議長(林 豊君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

この際、申し上げます。一九番議員君の質疑に対しましては、ただいま議運を開催している意見の調整いたしましたところ、今回に限りこの問題について教育長の方から答弁を受けるということで、今回限りということでございますので、議事の重要性からこれを許可いたしましたので、さよう御了承を願いたいと存じます。

○教育長(安田豊作君) 完全な合意が得られないというような動きがあるけれどもどうだと、こういうようなことでございますが二月六日に区長会、専門委員会の合同会議を持ったわけでございますが、この際もいろいろ激しい論議が行われましたが、まずその中で、区長さんからうちの方は反対だと表明されたのは浜田、早物、洲の崎、西川名、根本の五区長さんで、あとの区長さん要するに十区長さん賛成を表明されました。これはやはり民主主義のルールから西岬地区賛成というように、私どもは把握するようになります。思います。

それから、校歌の作詞作曲の予算については、これは学校が新

しくなるので、学校の統一と今後の学校の士気高揚のために校歌の必要を感じて、これは五十七年度予算ですから、五十七年度の中で処理させていただきたい。

それから、校舎建築については、統合のあかつきは小学校十学級になります。したがって三教室不足ということになるので、その分の増築を考えております。

遠距離通学費の予算の内訳ということでございますが、細かい補助のあれがありませんので、西岬地区総計で九百八十四万四千八百円というのが西岬、あとの残りは神余地区ということになります。こういうことで御了承願います。以上。

○一九番(石井輝久君) 第一点の質問に対する御答弁をいただきました。西岬地区内の二月六日に各区長さん方と慎重に激しい議論を闘わせながら話し合った結果、五区長さんが反対、その他の区長さんが賛成。(傍聴席にて発言する者あり)したがって、賛成がかなり上回っているということで、この事実をもって判断をされた。このような理解の仕方をして承りました。

それから、要するに新しい小学校の校歌を百万円かけて作詞作曲を頼むと、新生西岬小学校の将来に向かっていい歌をつくるという計画であろうかと思ひまして、これも了承いたします。

それから、要するに遠距離通学これはただいま御説明をいただきましたが、要するに五十七年度予算には補助金として一千三百六十三万九千円計上してあるが、このうち西岬地区の生徒を対象とするものが九百八十四万四千八百円計上されているということでございます。これもわかりましたから了承して私の質問はこれをもちまして打ち切ります。

○議長（林 豊君） 他に発言をしない議員の中で御質疑はあります。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

（「議長一番、動議」と呼ぶ者あり）
動議

○一番（神田守隆君） 動議を提出いたします。

西岬の学校統合問題は、十二月の市議会ですでに議決されたこととありますが、しかしあえてこれを旧に戻してほしいと西岬住民の直接請求があったわけでありす。しかも、その署名には該当地区である西岬有権者の過半数が署名をしています。こんなことは館山市政始まって以来初めてのことであります。ここには子供ののためにと文字どおり寝食を忘れて署名集めに駆け回った方たちがいるわけでありす。その声を無視して何で館山の教育が語られるでしょうか。

市議会は、市長や教育長の統合反対が一部住民に過ぎないとの説明を受けて、みずから議会としてその実情を調査することなく統合の条例を可決してしまったわけでありす。これらは住民の代表たる市議会が本来の意義から考えて大きな汚点を残したものと云わざるを得ません。いまた……

（「動議じゃないよ」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 動議は簡明に願います。

（「動議の提出じゃないよ、これは」と呼ぶ者あり）

○一番（神田守隆君） その轍を踏んではならない意味からいまからでも遅くはない。住民の意向に背を向けた議決があつてはなら

ない。

こうした立場から、この際全議員二十六人で構成する西岬学校問題調査特別委員会を設置して、

○議長（林 豊君） 一番議員申し上げます。

動議ですから簡明に願います。あなたのは自分の討論です。それでは。

○一番（神田守隆君） 西岬学校問題調査特別委員会を設置し、これに付託の上、調査されるよう望みます。期間は調査終了まで。

議員各位の御賛同を賜りますよう動議を提出いたします。

○議長（林 豊君） ただいま、一番議員神田守隆君から本案について特別委員会を設置して審議されたいとの動議が提出されました。

お諮りをいたします。本動議に賛成の諸君の起立を求めます。

（傍聴席にて発言する者あり）

○議長（林 豊君） 所定の賛成者がありませんので、本動議は成立いたしません。

（傍聴席にて発言する者あり）

委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

○議長（林 豊君） これより討論を行います。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） ただいま審議をいたしております議案第二十六号館山市条例改廃請求に係る条例制定について反対の討論を行います。

義務教育を受ける適齢児童及び学童は、将来にわたり社会、家庭を担う大切な宝であることは、私がここに申し上げるまでもございませぬ。社会においても各家庭の親、兄弟といたしましても将来の幸福を願う心は全く同じであり、真剣に考え取り組まなければなりません。

したがって、学校統合については昭和四十一年二月十一日館山市学校統合問題審議委員会の答申が行われて以来今日まで延び延びになっている重要課題でございます。したがって、議会における審査も時間をかけ十分論議を尽してきたところでございます。

憲法第二十六条の教育を受ける権利、義務教育においてすべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有するものであり、したがって、憲法の精神にのっとり具体的に教育基本法によって教育の機会均等を宣言しており、教育行政のあり方を明示しております。

現在、市内の義務教育を受ける適齢学童の教育的受益は、小規模校においてはきわめて不均等であり、その解決策は統合促進によってその不公平性を是正して、学童個々の無限の可能性を引き出し、能力を最大限に開発できる環境づくりこそ真の教育行政で

あると考えます。

したがって、統合の遅れは教育行政の怠慢であり、大きな汚点であると強く指摘をいたしたいと存じます。

もちろん、統合を行おうとする西岬地区の学童適齢児の過疎化は、現在の推計では将来さらに進み、生徒数の減少を考えるとときに、なおさら統合の必要性を痛切に感ずるところでございます。

しかし、統合に伴う弊害として起こる地域に与える影響はきわめて大きく、それなりに議会、委員会等において統合について慎重なる審査を重ね、問題点について厳しく指摘をし、物心両面にわたる軽減措置について十分質疑が交わされ、去る十二月定例議会において条例第十八号として議決されたところでございます。

しかしながら、今日のように複雑、多様化する現代社会において、教育はきわめて重要な問題で、教育とは学童の将来の幸せを願うことが目的であって、中学校の中等普通教育は、小学校の基礎的教育の上に心身の発達、成長に応じた教育を段階的に引き上げ、生徒の主体性を培うための教育課程でございます。

したがって、義務教育終了後において社会の形成者としての必要な資質と社会人として必要な職業についての基礎的知識、能力、勤労を重んずる態度、さらには個性に応じた将来の進路を選択する能力、社会的活動を促進し、公正な判断力を養うための学習の場として適正規模校に配置された専門教師によって、よりの確なる学習指導を行ってこそ、教育の機会均等であろうと判断をいたすところでございます。

したがって、統合によって生徒に与える教育的受益はきわめて大きく、一つには、専門教師による充実した教科の学習が受けら

れる。第二点目といたしまして、個々の生徒の適性に応じた運動さらには各文化クラブ活動が自由に選択でき、楽しく能力を伸ばすことができる。第三点目といたしまして、生徒会の活動を通して社会性を培うことは生涯教育に役立つものである。四点目といたしましては、漁業、農業及び商業地域等の生活環境の異なる新しい人間同士の出会いによって生徒の交流が行われ、人間形成に必要なコミュニケーション等社会的活動を大きく促進するものでございます。

したがって、次代の担い手として、お互いに切磋琢磨できる環境で、時代の変化に適應できる人間性豊かな社会人となられる義務教育こそ大切であると信じます。

以上の理由をもって、反対討論といたします。（拍手）

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 西岬学校統合に反対し、条例を旧に戻せとする住民の直接請求に賛成の討論をいたします。

住民直接請求という館山市始まって以来初めての運動に西岬住民が立ち上らざるを得なかった。それはこの学校統合が西岬の多数の住民の意向を確かめせず、一部の人々とだけかって話を進めてきたことに原因があります。そして地域の有力者と目される人の了解を取りつければ、その地域はそれで了解は成立したんだとして、ごり押しをする市当局の前近代的な市政運営にこそ最大の問題があり、絶対に承服できないものであります。

統合の結果、西岬の子供たちは、最も遠い西川名や伊戸からは約十三キロもの通学となります。この十三キロというのは、第二中学校を中心に測ってみると、北は岩井、東は千倉、南は白浜と

ほぼ同じ距離であります。中学生とは言え子供たちに負担をしいることになるのは明らかであります。通学に疲れ、バスの時間に制約された中学生生活になるではありません。父母の負担は三千五百円もかかります。通学の負担を子供と親にしいた統合は安房郡市でも館山だけであります。

西岬中学の運動会は、西岬あげての運動会として東、西の両小学校、幼稚園、保育園などと合同で、文字どおり西岬地区住民が一堂に会して行われる運動会です。地域と学校が一体となったこの姿は子供たちの教育にとっても、また地域の発展のためにも大変に貴重なものであります。こんなにうまくいってる学校はないというべきであります。

学校は、地域の文化的中心としての役割りを果たしているのです。市が強調されるコミュニティとは本来こういうものでなければなりません。上から押しつけのコミュニティなどはいりません。もともとからある学校と地域の交流これこそ真の意味でのコミュニティです。

四十八年の文部省の公立小中学校の統合についての通達では、学校規模を重視するあまり無理な学校統合を行い、地域住民等との間に紛争を生じたり、通学上著しい困難を招いたりすることは避けなければならない。また小規模校には教職員と児童生徒との人間的触れ合いや、個別指導の面で、小規模校としての教育上の利点も考えられるので、総合的に判断した場合、なお小規模学校として存置し、充実する方が好ましい場合もあることに留意することと述べていますが、事実、西岬中学は非行もなく、学業も、クラブ活動も他校にひけをとらないりっぱな実績を上げています。

先生と生徒との人間的触れ合いや個別指導など、西岬中が教育上の利点を持っていることは明らかであります。西岬中学は残すべきであります。

昨日、西岬の父母の方が就学通知書を返却した旨の願い書、その中で「万一統合を実施した場合、われわれは登校拒否をも目下考慮中であります」と述べていますが、西岬の父兄をしてこまで追い込んだ市当局の責任は重大であります。不測の事態が生じた場合、その責任はあげて市当局の側にあるというべきであります。また市議会がこれに追従したとすれば、市議会史に汚点を残すことになりましょう。

子供たちの幸せのためにと寝食を忘れ、一心に署名に、陳情にとがんばっている西岬の父母の皆さん方の必死の姿を見て胸の痛み思いであります。

市議会は、この声をわが思いとして、西岬学校統合を旧に戻し改めて西岬地区の学校のあり方について検討に入るべきであります。

以上、諸点を主張し、この住民直接請求に賛成の私の討論いたします。

(傍聴席にて拍手する者あり)

○議長(林 豊君) 他に討論はございませんか。

(七番議員古賀礼四郎君登壇)

○七番(古賀礼四郎君) 私は反対の立場から討論させていただきます。

私が申し上げるまでもなく、地方自治の基本理念は、先ほどから言われていますように、住民の政治参与であり、また住民自治

は全住民の参加によるべきものでありますが、実際には不可能のために住民の代表者として長及び議員等を選んで間接的に政治、行政にくだわることになっているわけであります。したがって、自治行政の究極的責任は住民に帰するものであります。その責任を他に転嫁することは当を得たものとは申せません。

そもそも、学校統合の問題はいま突然に提案され、急に実施に移されたわけではなく、四十一年から計画され、実施されてきたものであります。他の市町村においても同様であります。

これが現在こじれた問題となり、間接民主主義の弊害を是正するための一方法、すなわち住民の直接請求ということまでになつたことは、市サイドと住民サイドの十分なるコンセンサスが得られていなかったことに起因するものと考えられます。

すなわち、市側の反省すべき点としては、行政が結果のみを知らせる行政に傾き、常日頃から可能な限り情報、経過を住民に提供しなければならぬのに、その点が不十分であったこと。

また、住民側の反省すべき点として、常日頃は市の行政に積極的に関心を持たず、区長及び地区の役員のある一部の人にまかせっ放しにしているというあり方に問題があるのではないでしょう

か。

また私は、民主主義には権利と義務が併立するものであり、すでにこの件は権利主張の時期でなく、義務履行の時期に入っているものであり、政治行動にはすべてタイミング的のものが必要であると考えます。

現在は、国も県も市町村も、行財政の改革ですべての面の組織、機構の縮小化、効率化を図っているときであり、教育面につい

ても教職員の人件費、学校施設の維持管理費等を縮小し、統合すべきものは統合し、効率化を図らねばなりません。もっとも、教育の向上は財政面だけで考えるべきでなく、りっぱな人間形成というむずかしい問題が優先されるべきであることは当然でございます。

では、具体的に私が本案に反対する理由を申し上げます。

その第一は、現在西岬中は生徒数百五十七名であります。推計上十年後に百三十八名となり小規模化するものと思われ、したがって、専門教師の配員も少なく、十分なる知力、体力の向上が望まれなくなるのではないかと心配。

その二つ目は、先ほどの栗原議員の討論と重複するようになりますが、同意見が出てくるのは常識的考え方であると思ひ、あえて申し上げます。適正規模の学校ではクラブ活動が活発に行われ特定のクラブだけが強化されるのではなく、生徒自身の興味、適性、能力に応じたクラブに全員が加入できて、学校生活が楽しくなり、ひいては非行も少なくなると想像されること。

その三は、生徒の父兄が各方面の職業を持っているので、その子供たちの間の交流がなされ、将来社会人として必要な物の見方、考え方が自然と養われ、広い視野が養成されるものと考えます。

以上、三点であります。私は現在の教育体制から見ると、授業から受ける人間形成よりも、クラブ活動、生徒会等を通じて自然と習得する人間形成の機会が多いことを見聞しております。

すなわち、現在是非常に変動の激しい時代であり、したがって行政は一日もじっとしていることは許されず、常に周りの変動に対して機敏に遅れないで施策を講じていかねばならぬ。新しい都

市づくり、都市計画は停滞し、市民及び地区住民にマイナスを与える。また住民も進んで市の施策に関心を持ち、施策の決定を見た上は全市民あげてこれに協力する体制をとらねば真の民主主義政治は推進しないのではないかと考えます。

一方、よく熟考しますに、いま最も不安を感じ、影響を受けているのは、進学を間近にしてぼくたちは、私たちはどの学校に行くのかと小さな胸を痛めている学童たちであります。子供たちのことを優先的に考えるならば、大人たちがそれぞれの自己主張でこの問題をいつまでも混乱させてよいものでしょうか。大同小異という言葉もございます。私は統合することが将来館山の市民を構成する子供たちによりよいものと確信いたし、条例の制定に反対の討論をする次第でございます。以上。(拍手)

○議長(林 豊君) 他に討論はございませんか。

(九番議員松下正己君登壇)

○九番(松下正己君) 私は議案第二十六号館山市条例改廃請求に係る条例の制定について反対の討論を行います。

本議場には、二十五人の議員の方と行政側二十名の出席がなされておりますが、統合という立場を子を持つ一人の親として体験をされた方はないと思います。いまの西岬の父兄の方々と同じく私は三中統合という中で、当時子供は二中の二年生でありました。伝統ある二中教育の中で二年を過ごし、あと一年で卒業というところで三中統合問題が起こり、しかもそれは分割された中で行われ、真実犠牲になった感がありました。また同級生の中でどぶ板一枚渡れば二中に行けるといふ子もあつたやに聞いております。なぜ、私たちはこのような統合に賛同したか、当時北条地区は

統合するについて行政に対し条件はほとんど求めておりませんでした。ただ教育委員会の統合する趣旨説明の中の一言に納得したのです。二中にまさらとも劣らない施設づくり、指導体制の強化の充実、この二点を信じつつ統合に踏み切りました。

現在、子供たちは九重、館野、北条の子供との差はなく、非常によい結果が学習、部活動等に如実にあらわれてきておると聞いております。(傍聴席にて発言する者あり)

親のなすべきことは、家庭教育の充実、徹底にあり、学校教育は学校の内容の如何にあると思います。

西岬の統合については分割されることもなく、全員二中ということで私たちより恵まれております。

健全なる育成は教育環境に支配されると言われております。私は長年子供会活動を通じて市内各地の多くの子供さんを見てまいりましたが、よき指導者のあるところ非行は少なく、また現在の多様化された社会でも取り巻く環境の変化を子供たちは敏感に、子供なりに解決していくものです。この自主性こそいまの子供に求められておるものと信じます。

西岬の統合が行われる拠点である二中は、千葉県においても教育水準は高位にあり、先生方は教育熱心であると聞いております。これらの実績を考えると、西岬地区の子供さんは恵まれており、私は統合によって子供たちの将来が約束されるならば、最適の処置と納得できるかと思えます。

行政は、行政としての配慮を統合に対し地区に行っており、また議会においても審議は慎重にし尽されておりますので、これらを踏まえるとき、後は今後の行政の姿勢にあると考えられます。

いままでの経過の中で住民の意向、距離感を克服して通学する西岬の子供たちに特段に配慮をはらい、前向きに対応していかれるよう強く要望いたしまして、反対の討論といたします。(拍手)
○議長(林 豊君) 他に討論はございませんか。

(一九番議員石井輝久君登壇)

○一九番(石井輝久君) 私は本案に対する反対の討論を行います。昨年十二月十五日の当議会に提出されました西岬中学校統合の早期実現に関する請願書、これは当議会に本年度に提出された請願としては六番目のものでありましたが、その請願の紹介議員となった吉田勇治郎、福原 勤、安澤徳順、安西益男、石井 正、栗原一雄、近藤好雄、松下正己、伊賀多朗の九議員さんと私を加えた十議員になりかわりまして、その趣旨を説明いたしました。本日、ここに新たに提案されました本案について反対するゆえんものは、統合促進の請願書の趣旨説明で申し上げました理由と全く軌を一にするところであります。

すなわち、私は古い伝統を誇る東、西両小学校が失われることに対しましては、本当に心から御同情申し上げるにやぶさかではなく(傍聴席にて発言する者あり)その心情は察するにあまりあることをまず申し上げます。

さきの趣旨説明でも触れましたとおり、西小学校は明治七年四月に伊戸小学校として発足しております。明治七年と申しますと私も全国市議会議員がひとしく携帯しております五十七年版の市議会手帳というのがございますが、年齢、西暦早見表というのをめくってみますと、一番古い欄が明治十一年でありまして、明治十一年以前は載っておりません。明治十一年といえますと、いま

から百三年前でございます。それよりさらに四年も前に伊戸小学校ができておりますので、百七年前に設置されたことになります。まことに古い伝統を誇るわけであります。その後明治二十二年、九十二年前に伊戸小学校から現在の西小学校に名称が変わって今日を迎えており、また東小学校にありましても、いまから百七年前の明治七年に塩見小学校という名称のもとに発足し、その後三十二年間を過ごした後、日露戦争直後の明治三十九年に、つまりいまから七十三年も前に塩見小学校から現行の東小学校に名称を変更した経緯と歴史的事実が物語るように、まことに古い伝統を誇るに足る学校であることは論をまつまでもありません。

いま、この議場には、くしくも西小学校の卒業生であられる先輩議員吉田勇治郎元議長が二一番議席に座っておられる。また議席番号五番には東小学校御出身の同僚福田 勲議員がおられる。身につまされて統廃の行方を見守っておられます。両議員ともその母校を失わんとしているのであります。その心情は重ねて察するにあまりあるものがあることを申し上げないわけにはまいりません。

学校に、もし心があるならば、学校がもし私どもと同じように考えることができるならば、さらに学校が言葉を語ることができるとすれば、この両校とも感慨をこめてその過去の歴史を物語るに違いありません。苦しかったこと、悲しかったこと、そして楽しかったこと等々が数多くあったに違いありません。

先にも触れましたが、明治初年と言えばあの西郷隆盛がいたり、大久保利通がいた頃でありました。時の明治政府は日本の国の津々浦々までまだ文盲が多かった農漁村の子弟を一日も早くヨーロッパ

並みの教育水準に持つていくべく、小学校をこの西岬という辺境の地にも設置したのであります。いまはもちろん辺境ではありませんが、いずれにしても西岬は明治初年にすでに日本の小学校教育の恩恵にあずかり、周辺地域に先駆けて教育の先進地となつたわけであります。

そして、国の富国強兵の政策の波を受け、明治十年には政府軍と西郷軍とがあの九州で干戈を交えた西南戦争も体験しており、学校に言葉があるならば、その体験も物語ることでありましょう。明治二十七年には日清戦争が起こっており、三十七年には日露戦争を、大正の時代に入っては第一次世界大戦で西岬地区からは数多くの船員、船長を輩出したこともありました。昭和に入ってから昭和六年の満州事変、同十二年の日華事変ここらになりますと、身をもって戦争体験を味わった方が西岬にも現存することはもちろん、戦死、戦病死、戦傷者もおられます。それに、私どもは昭和十六年十二月八日に始まるあの太平洋戦争の敗戦という事実を通じて幾多のとうとい教訓を得ました。いわく男女同権、いわく民主主義、いわく福祉政策の増進、いわく学校教育のレベルアップ等々が指摘されましょう。

そして、いまや、館山市の教育の様相も一変しております。高校進学はあたかも義務教育であるかのようになってきただけでなく、父兄はその子弟を女の子ならせめて短大に、男の子なら四年制の大学に進学させたいという教育ママさんの激増という時代の波は、西岬地区だけを例外としておくわけはありません。こういう時代の環境の変化という事実の背景を何人も否定する者はございませんまい。

こういった時代背景というものをよく考え、頭の中に入れて冷静に学校の統廃を考えると、西岬の東小には教壇に立って子供を教えてくれる先生は、わずかに六人しかおりません。西小学校も全く同じ六人しか教壇に立って教えてくれる先生がいないのであります。それに教頭が一人、校長が一人で計八名。養護教諭は配置されておりません。

東小学校の小滝竹雄校長先生は校長室にいたことがありません。いつも職員室の片隅で店番のように電話に出たり、来客の応対から、教育委員会の連絡やらで、一人何役もの働きをしいられている現況であります。

子供の情操教育はおろか、あまりの急がしさに六人の先生方御自身の研修のいとますらありません。こういう実態を冷静に見るとき、教師の長い将来の教師生活にありまして、研修の機会があってもその恩恵に浴することができないとあってはどうでしょう。か、よその学校の同僚だけでなく、やがては後輩にまで遅れをとってしまい、教師の資質すら問われなくてはならなくなるであろうことを私が指摘するまでもありません。いい教師はこういう零細校に配置しようにもしようがなくなってしまう傾向にあることは、どなたも否定しようがないのであります。こういうところから、教育のアンバランスが生まれてくることは事実として指摘せざるを得ません。

児童たちは、みずからの心、みずからの体の中に無限の可能性を持ってあります。その子供たちが将来中学校へ、あるいは高校へ、あるいはまた大学へ進んだとき、または進学しなくとも社会に出たとき、ああ、西岬小学校でいい先生に出会いまことに恵ま

れた環境のもとにいい教育が受けられたなあと胸を張って思い出すことのできる教育を西岬地区の子弟にもひとしく受けさせてあげたいという館山市内の大人たちの心からなる願いは通じないものでありましょうか。（傍聴席にて発言する者あり）

子供の未来を考えると、私ども大人たち、ことに議会人としての私どもは、これこそ教育の機会均等、アンバランスの解消につながる唯一の道であるとして選択した統合への道行きを誤った選択だったと言えるのでありましょうか。

小学校を統合すれば、西岬小学校でございしますが、理科、体育美術あるいは音楽などの免許状をお持ちの先生が一人は配置されることとなります。また養護教諭も配置されることとなります。

学校施設はりっぱであっても、貧弱であってもあるいはかまわないかもしれない。しかし教師の資質と専門教師の配置といった問題を考えると、西岬の子供たちが内にひめている無限の可能性の実をしぼませるのではなく、花を開かせ、実をみのらせてあげる責務が私ども大人に課せられているのではないのでしょうか。

西岬の方々に音痴の人が多いなどとは決して申しません。（傍聴席にて発言する者あり）しかし子供の頃に音楽の専科の先生に手をとって指導されたとしたら、少なくとも音楽に対する理解を寄せる大人に西岬の子供たちが成長していくのではありますまいか。

さらに、子供たちにとって東小学校の百五十五名の友達、西小学校の百二十三名の友達の交わりが、統合によって二百七十八名の友達にふえるのであります。友達がふえることに反対する親御さんがいるのでありましょうか。この子供たちの中から可能性と

して将来選挙に立候補する人がいないとは断定できません。もし立候補でもすることになれば（傍聴席にて発言する者あり）友達が多いことはまことに結構なことでございます。

（傍聴席にて発言する者あり）

○議長（林 豊君） 静粛に願います。

○一九番（石井輝久君） 西岬中学校の廃止そして二中への統合、通学にありまして、現行の西岬中生徒数百五十八名、これに対して教壇に立つて教えることのできる実働教師数はわずかに十名に過ぎません。（傍聴席にて発言する者あり）美術や体育の教師は一人もおりません。それでもよろしいか。（傍聴席にて発言する者あり）現在では国語の先生が免許を持っていない社会科を教えている人もいます。それでもよろしいか。（傍聴席にて発言する者あり）音楽の免許を持っている先生が無資格の家庭科と美術を受け持っているのです。また体育の授業も体育の免状を持っておらず、社会科の免許を持った先生が二人、国語の先生が一人計三人が助っ人先生、ピンチヒッター先生であります。こういう現況でよろしいのでありましょうか。（傍聴席にて発言する者あり）まことに暗たんたる気持ちに陥らざるを得ません。

（傍聴席にて発言する者あり）

○議長（林 豊君） 静粛に願います。

○一九番（石井輝久君） 生徒の将来に思いをいたすとき、同じ館山市内の館山市民の子弟でありながら、このアンバランスを放置しておいていいのでありましょうか。教育内容の乏しさをこそ嘆かなくてはならないのではないのでしょうか。

これを別の面、つまりクラブ活動の面からながめて見ますと、

いまの西岬中にありましては男子生徒はたった四つのクラブしかありません。剣道、野球、卓球、水泳の四つだけのクラブであります。女の子はどうかといいますと、さらに少ない。たった三つしかクラブがございません。剣道とバレーボールと卓球しかないであります。

これが二中にまいますとどうでしょうか。男の生徒の場合クラブが十五あります。柔道、剣道、野球、バレーボール、バスケットボール、陸上競技、水泳、サッカー、卓球、テニス、プラスバンド、家庭、放送それに音楽の合唱が加わって計十五、自由にどこにでも参加できます。女の生徒にありまして、二中にまいますと十一のクラブを持っているのであります。柔道、剣道、陸上競技、バスケットボール、バレーボール、卓球、水泳、テニス、バトントップワラーそれに英語と放送が加わって十一のクラブ活動に参加できるのであります。

子供を非行から守り健全に育成するためには、教科の詰め込みだけでは達成できるものではありません。ことに伸び盛りの中学生にありましては、家庭教育でも及ばない体育を初めとするクラブ活動を通じて非行に走らず、たくましく、生氣あふれる大人に育っていくことは言うまでもないと思うのであります。

百五十八人の西岬中の友達から、二中で八百人の友達を得ることになります。それだけではありません。やや専門的にはなりませんが、生徒の自治活動、奉仕活動を通じて人間形成に大きく作用していくことは論をまつまでもありません。

さらに、申し上げますならば、英語、国語、数学、理科を初めとする全教科に専門教師が控えておりまして、兼任などは一人も

おりません。こういう総合的な教育環境のもとで、二中の現在の佐野校長先生は胸を張って「全人教育のもとに非行なし、全人教育のもとに非行なし」と責任を持って断言をしておられます。

なるほど、通学距離は遠くなることを否定する者ではありません。私のなくなったおばに原じゅんという人がおりました。この人は西岬で教師をしておりまして、古い方はご存じの方が多からうと思いますが、(傍聴席にて発言する者あり)知らない人はよそ者でございます。この実家が塩見でございます。塩見の実家から十三歳の身をもって当時の安房高等女学校に歩いて、十三歳の身で歩いて、西岬の塩見から(傍聴席にて発言する者あり)通学した思い出をよく語っていたことをいま想起いたします。当時は、いまの長須賀の測候所のあたりに高等女学校があったのでありますが、朝家を出るとき東から太陽を受けます。夕方学校から(傍聴席にて発言する者あり)家に帰るとき、家路につくときは西日を受けて帰ります。いつも体の右半分が太陽にさらされるために着物とはかまの右半分が日焼けしてしまったものだと思っております。おかげで丈夫になったよと、なつかしげによく語っていたことをいま思い起こしつつ、本案に対して反対の討論いたします。

なにとぞ、満場の議員諸公の御賛同を賜りたくお願いを申し上げます、御清聴を感謝するものであります。(拍手)

(傍聴席にて発言する者あり)

○議長(林 豊君) 他に討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終わります。

採

決

○議長(林 豊君) これより採決いたします。採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

(傍聴席にて発言する者あり)

○議長(林 豊君) 起立少数であります。よって議案第二十六号館山市条例改廃請求に係る条例の制定については否決されました。(傍聴席にて発言する者あり)

延

会 午後三時四十五分延会

○議長(林 豊君) お諮りいたします。本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よってこれにて延会することに決しました。

なお、明三月六日から十日まで議案調査のため休会、次会は三月十一日午前十時開会とし、その議事は通告による行政一般質問を行います。

○本日の会議に付した事件

一、会議録署名議員の指名

二、会期の決定

三、会議日程の決定

四、議案第一号乃至議案第二十六号